

事務事業及び予算の執行実績

(令和6年度分 一部、令和7年度分を含む)

静岡県立伊豆伊東高等学校

目 次

1	事務事業の概要	1
2	事務執行の根拠法令調	37
3	学校施設の概要	38
4	在籍生徒調	40
5	入学志願者及び入学者数調	42
6	卒業生の動向調	44
7	生徒の状況	47
8	授業料収納状況調	50
9	県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調	54
10	保管現金有高調	55
11	預金調	55
12	郵券等受払調	56
13	委託料等歳出予算執行状況節別集計表	57
14	委託料に関する調	59
15	補助金支出調	63
16	負担金支出調	64
17	建築工事調	67
18	公有財産調	69
19	借地借家等調	71
20	事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調	72
21	行政財産貸付・使用許可調	73
22	普通財産・借受財産等貸付調	74
23	職員公舎管理状況調	75
24	主要備品調	76
25	職員調	77
26	職員の年齢調	81
27	健康管理	82

事務事業の概要

1 概況

(1) 本校の沿革

ア 本校の前史

【静岡県立伊東高等学校】

昭和8年2月16日	伊東町他1町3村組合立静岡県伊東高等女学校設立認可
8年4月4日	伊東町他1町3村組合立静岡県伊東高等女学校開校
22年9月5日	静岡県伊東市立伊東高等女学校と改称
23年4月1日	県に移管し静岡県立伊東高等学校と改称（普通科、商業科）
23年9月1日	定時制の課程を併置
38年4月1日	商業科募集停止
52年4月1日	校舎新築移転
平成18年4月1日	城ヶ崎分校を併置
令和3年4月1日	伊東地区新構想高校校舎建築に伴う仮移転により伊東商業高校と施設共用開始
5年3月31日	静岡県立学校第三次長期計画による再編整備のため閉校

【静岡県立伊東商業高等学校】

昭和37年3月19日	静岡県議会において静岡県立伊東商業高等学校開校の旨議決
38年4月1日	静岡県立伊東商業高等学校開校
45年4月1日	小学科制実施（営業科、事務科、経理科）
60年4月1日	単一学科制移行 商業科
平成6年4月1日	情報処理コース、会計コース及び流通ビジネスコースの設置
15年4月1日	学科改編 総合ビジネス科
令和3年4月1日	伊東地区新構想高校校舎建築に伴う仮移転により伊東高校と施設共用開始
5年3月31日	静岡県立学校第三次長期計画による再編整備のため閉校

イ 本校の設立経緯

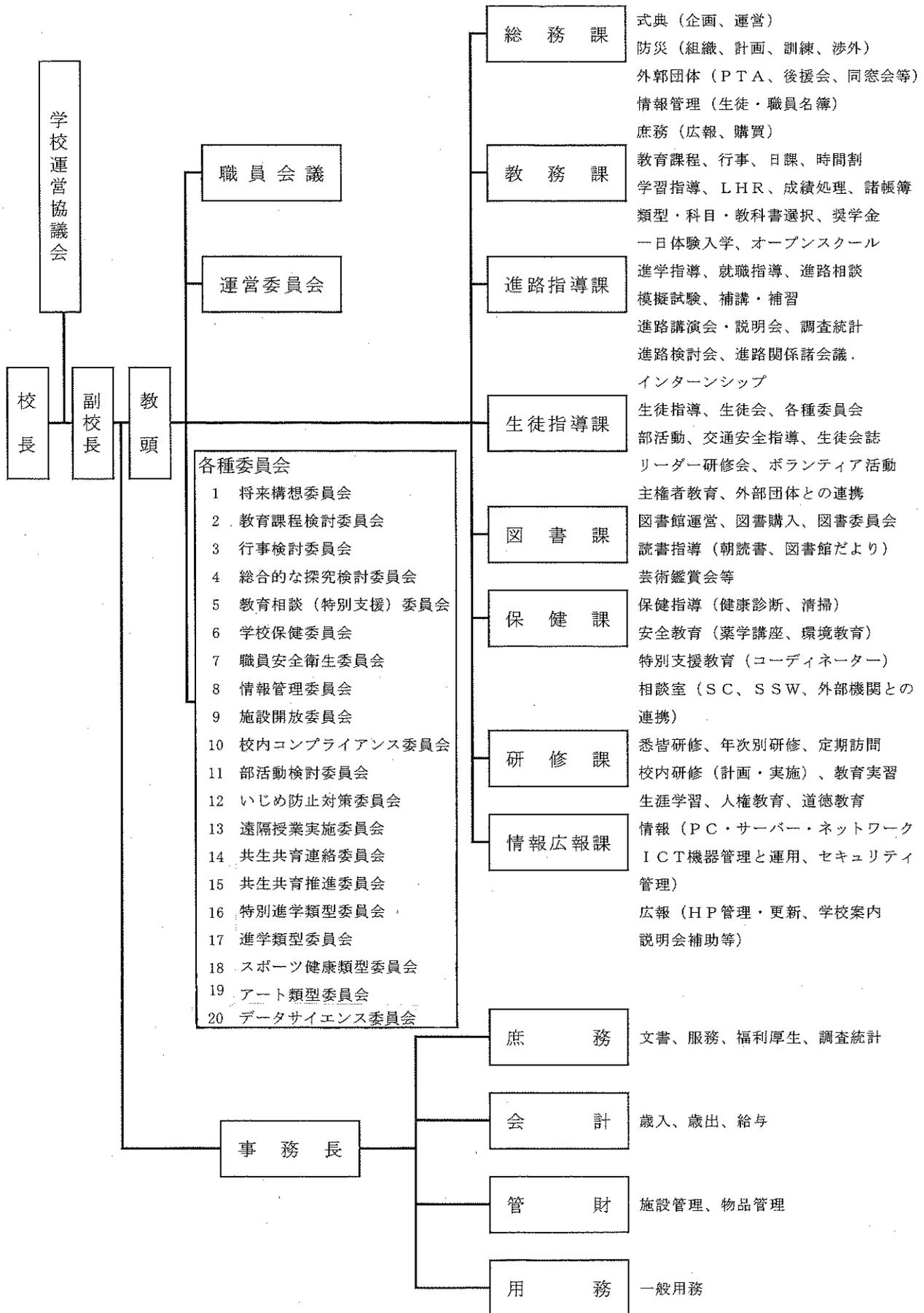
平成30年	静岡県立高等学校第三次長期計画において、再編整備を公表
30年	伊東地区新構想高等学校設置準備委員会
令和3年	伊東地区新構想高等学校開校準備委員会
4年3月	静岡県立高等学校設置条例の一部改正 校名を「静岡県立伊豆伊東高等学校」とする
5年3月28日	校舎建設工事完了

ウ 本校の沿革

令和5年4月1日	静岡県立伊豆伊東高等学校開校 全日制普通科、ビジネスマネジメント科及び定時制普通科を設置 全日制普通科生徒定員 160人 ビジネスマネジメント科生徒定員 80人 定時制普通科生徒定員 40人
4月6日	静岡県立伊豆伊東高等学校開校記念式典を挙行

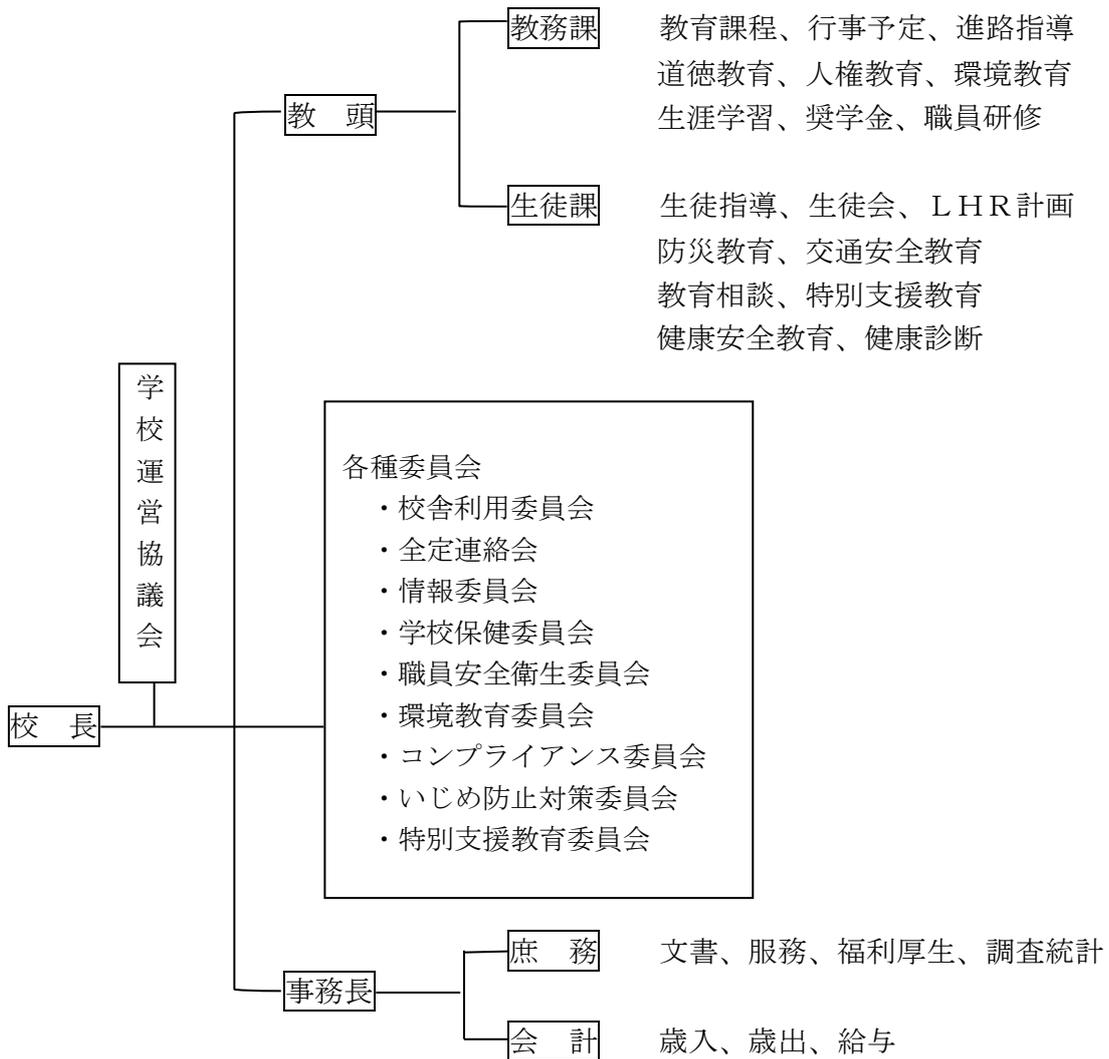
全日制

(2) 組織図



定時制

(2) 組織図



2 目指す学校像

【全日制】

(1) 教育目標

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>基礎的知識・技能</u>（豊かな感性、豊かな教養） ・ <u>個々の学科・類型や志向に応じた専門的知識・技能</u> ・ <u>情報収集・分析力</u>（確かな情報収集、幅広い視野、深い洞察力） ・ <u>課題発見力、解決力</u>（論理的思考力、構想力、ポジティブシンキング、発信力） ・ <u>セルフコントロール</u>（感情制御力、ストレスに対応する力、レジリエンス、粘り強さ） ・ <u>自分らしさの創出</u>（自己肯定、工夫する力、突破する力、独自の発想力） ・ <u>責任ある行動を取る力</u>（挑戦する意欲、目標の明確化、効果的な計画立案） ・ <u>協働する力</u>（チームワーク、リーダーシップ、柔軟性、コミュニケーション能力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数の学科、類型を併置することで、個々の特性やキャリアデザインに合わせた学習内容を構成し、学科や類型の横断による創造的な学び ・ 併置する特別支援学校との日常的な共生・共育、多様な生徒の実態に応じたソーシャルスキルトレーニング ・ 伊東地区の豊かな自然環境や観光資源を活用し、多面的な視点で探究的な学び ・ 特別活動、部活動においても育てたい資質・能力を伸ばすことを目指した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考え、行動する力を伸ばす意欲のある生徒 ・ 豊かな感性と教養を身につける意欲のある生徒 ・ 他者と協働し、未来を創造する意欲のある生徒 ・ 校訓に基づき、将来にわたり、真理を尊び、価値を生み出し、他者を支える人でありたいと希求する生徒

(2) 目標具現化の柱

- ア 確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上を図り、学科、類型ごとの特色化を進める。
- イ 生徒が心身ともに健康的で他者を思いやる生活を送るための指導・支援の充実を図る。特別支援学校との交流等を積極的に展開する。
- ウ 生徒の社会的・職業的自立を促すキャリア教育を展開し、生徒個々の進路実現を図る。
- エ 伊東地区唯一の高校として地域連携、地域貢献活動等を通して探究的な学びを展開し、地域・保護者に愛され、信頼される学校づくりを推進する。
- オ 特別活動、部活動の活性化を図る。
- カ 行きたい学校づくり推進事業の指定に基づくデータサイエンスのスキルを備えた人材を育てるカリキュラム等を構築する。
- キ 「育てたい力」をどの程度伸ばすことができたのかを検証する。
- ク 生徒の豊かな学びの前提となる教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善を推進する。
- ケ 生徒の豊かな学びの前提となる安心・安全で快適な教育環境の整備を図る。
- コ 生徒の豊かな学びの前提となる確実で効果的な学校事務執行を推進する。

【定時制】

(1) 教育目標

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的知識・技能（豊かな感性、豊かな教養） ・ 個々の生徒の志向に応じた専門的知識・技能 ・ 情報収集・分析力（確かな情報収集、幅広い視野、深い洞察能力） ・ 課題発見力、解決力（論理的思考力、構想力、ポジティブシンキング、発信力） ・ セルフコントロール（感情制御力、ストレスに対応する力、レジリエンス、粘り強さ） ・ 自分らしさの創出（自己肯定、工夫する力、突破する力、独自の発想力） ・ 責任ある行動を取る力（挑戦する意欲、目標の明確化、効果的な計画立案） ・ 協働する力（チームワーク、リーダーシップ、柔軟性、コミュニケーション能力） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校までの学習の学び直しの充実 ・ 併置する特別支援学校との日常的な共生・共育、多様な生徒の実態に応じたソーシャルスキルトレーニング ・ 伊東地区の豊かな自然環境や観光資源を活用し、社会への視野を広げ社会自立につなげる探究的な学び ・ 特別活動、部活動においても育てたい資質・能力を伸ばすことを目指した取組 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら考え、行動する力を伸ばす意欲のある生徒 ・ 豊かな感性と教養を身につける意欲のある生徒 ・ 他者と協働し、未来を創造する意欲のある生徒 ・ 校訓に基づき、将来にわたり、真理を尊び、価値を生み出し、他者を支える人でありたいと希求する生徒

(2) 目標具現化の柱

- ア 基本的な生活習慣を定着させるとともに、社会性を高め、他人を敬愛する心を育てる。
- イ 基礎・基本の理解を深め、確かな学力に結び付けるとともに、個々の特性・志向に応じた学力の向上を目指し、授業改善を図る。
- ウ 自己や職業に対する理解を深め、自立した生活を送る意識や進路意識を育てる。
- エ 学校行事、生徒会活動、部活動などへの参加を促進し、心豊かな生徒を育てるとともに、自己肯定感を向上させ、自分らしさの創出を図る。
- オ 健康、安全な生活を送るため、心身の自己管理能力を向上させる。
- カ 定時制教育に対する理解を深める。
- キ 業務改善により教員の豊かな教員人生を確保し指導の質の改善をはかる。

3 監査対象期間の年度別学校経営の取組等

【全日制】

(1) 令和6年度の取組目標への評価及び成果と課題

「共」：学科共通 「普」：普通科 「商」：総合ビジネス科（2、3年生）、ビジネスマネジメント科（1年生）

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
ア	確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上 学科、類型ごとの特色化	秋実施の到達度テストの再実施で学習到達度が上昇した生徒95%以上【1、2年生共】	達成できなかった	全体では、国語55.0%、数学68.6%、英語56.7%の生徒が上昇した。効果の薄かった教科目としては、特別進学類型1年の英語47.8%、ビジネスマネジメント科2年の国語33.3%、数学37.5%が目立った。事後指導や授業等への反映が課題となる。
		1日の平均家庭学習時間が最低1時間以上の生徒割合が各学年80%以上【共】	1年：73.6% 2年：60.6% 3年：52.3% 全体：66.8%	昨年度の全体の割合は65.9%。特に1年生において家庭学習の習慣が身についている。一方、アンケート実施時期の影響によるものか、3年生の割合が著しく低くなっている。
		「授業がわかる」回答生徒割合80%以上【共】	85.6%	昨年度は88.4%。なお、「積極的にグループ学習に取り組んでいる」と回答した生徒は91.5%であったが、「授業を受けた後に力がついたと実感している」生徒は78.2%であった。より一層授業力の向上を図る必要がある。
		受検実績が1人1回以上【普】 卒業時検定取得2種目以上【商】 放課後等検定補習実施【商】	1・2年生は英検IBAを全員受検した 達成した 今年度も実施した	外国語科や商業科の取り組みにより、意欲的に検定取得に向けて取り組む生徒が多い。 商業科教員による、検定の個別受験者への対応についても手厚く実施できた。
		朝読書の時間設定【共】 一人年3冊以上の読書【共】 図書館を利用した授業や講座を校内全体で月3回以上実施【共】	朝5分間の時間を設定した 64.8% 国語科、英語科、地歴・公民科、芸術科が利用した。月によって回数変動した	昨年度、年3冊以上の読書をしたと回答した生徒は37.2%であり、今年度は大幅に増加した。要因としては、図書館の整備が済んだことや朝読書の指導の効果によるものかと思われる。 また、各教科での活用や、放課後の自習スペースとしての開放を始めたことで、図書館の使用頻度も高まった。

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
ア		<p>1月進研模試(国数英)で平均GTZがB1以上(1・2年生)、共通テストと2年2月マーク模試の得点比が2割増の生徒が80%以上(3年生)【普・P/特進】</p> <p>「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・P/特進】</p>	<p>1年生32.4% 2年生45.8% 3年生の平均上昇点は1000点中139点。</p> <p>97.8%</p>	<p>1月時点の各種模擬試験の結果によると、3学年ともに昨年度並みの学力を身につけていることがわかる。</p> <p>昨年度は91.1%。今年度は昨年以上に丁寧な指導や意識づけを行ったことで、割合が高まったと考えられる。</p>
		<p>「自分の好きなことや強みを理解して、進路を考えている」回答生徒割合80%以上【普・C/総キャリ/進学】</p> <p>「教師が生徒の進路に応じた声掛けをしてくれる」回答生徒割合80%以上</p> <p>「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・C/総キャリ/進学】</p>	<p>86.3%</p> <p>87.2%</p> <p>83.4%</p>	<p>それぞれの項目で80%以上の回答が得られたが、「授業や行事を通して学習意欲が上がった」生徒のみ、目標とする90%以上を達成できなかった。</p> <p>生徒の進路に対する意識は高く、教員も面談等の機会を設けることで生徒の実態に合わせた指導を行うことができていると考えられる。学習意欲がやや低くなっている一因は、特別進学類型に比べて進学類型独自の進路行事が少ないことの影響があるのではないかと考えられる。</p>
		<p>「アートコース(類型)に設置された専門の授業により、アートの専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【普・アート】</p> <p>全国レベルの大会やコンクール出場2件以上【普・アート】</p>	<p>95.7%</p> <p>1件</p>	<p>専門スキルを持つ教員の指導や、デジタル機器を用いた作品制作などの機会により、高い専門性を身につけることができた。</p> <p>全国高等学校漫画選手権大会まんが甲子園に静岡県代表として出場し、高知県高等学校文化連盟会長賞及びやなせたかし賞を受賞した。また、高校生国際美術展の奨励賞、愛鳥週間ポスターコンクールの静岡県知事賞、ふじのくに健康づくりポスターコンクールの最優秀賞、静岡県高等学校美術・工芸展の優秀賞などを受賞した。</p>

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
ア		「スポーツ健康類型に設置された専門の授業により、スポーツ健康に関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【普・ス健】 来年度新たに開講する科目のシラバス、指導案の作成、授業内容の検討【普・ス健】	100% 作成済	今年度から開講した類型であるが、保健体育科の教員による工夫により非常に高い満足度が得られている。スポーツ医学検定3級を11人が受検し、10人が合格した。 次年度は完成年度となるが、外部連携している団体との振り返りも行いながら、より充実した授業内容に高めていきたい。
		「商業科目の授業により、ビジネスに関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上【商】 全国レベルの大会出場2件以上【商】	97.7% 達成した	商業科目の授業で得られる満足度が非常に高いことが分かる。ビジネスプラングランプリ、ビジネスアイデア甲子園等に出場し、ビジネスプラングランプリではファイナリスト、ビジネスアイデア甲子園では学校賞を2年連続受賞できた。それぞれ連続受賞は初である。
イ	心身ともに健康的で他者を思いやる生活 特別支援学校との交流等の積極的展開	「服装を正し、礼儀やマナーをわきまえて行動している」回答生徒割合90%以上【共】	98.6%	昨年度は96.8%。生徒の意識はさらに高まっているが、一部でルールを逸脱する生徒もいる。継続的な声掛けや指導を継続する必要がある。 昨年度は85.9%。意識をもって取り組んでいる様子がうかがえる。
		「地域や近所の人と会うとあいさつをしている」回答生徒割合80%以上【共】 昇降口指導の実施【共】	89.4% 毎日7:50～8:30まで、各学年1名の教員で実施。それ以前は複数の有志教員が実施	
		保健だより年12回発行【共】 薬物講座等年2回実施【共】 AED講習等への生徒参加【共】	毎月発行した 薬学講座1回、思春期講座3回実施 実施した	紙での発行に加え、メールを利用して家庭にも3回周知した。 今年度も計画どおり実施できた。アンケート等も活用し、講座の内容に反映させた。 昨年度は生徒の参加はなかったが、今年度は1年生の保健体育の授業で全員が、2年生のスポーツ健康類型の生徒が、一次救命処置を学んだ。
		朝食摂取率90%以上【共】 年間欠席日数10日以内、遅刻早退については年間合計日数10回以内の生徒の割合90%以上【共】	95.2% 1学期98.2% 2学期97.5%	昨年度は94.4%であり、昨年度並みであった。 目標は達成した。昨年度よりも学校全体の欠席率は減少しており、長期欠席傾向の生徒も減少している。

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
イ		学校生活サポートシート等を活用した「生徒情報交換会」学期1回【共】	生徒情報交換会を学期に1回実施した	学校生活サポートシートに加えて生徒情報シートを活用し、配慮を要する生徒の情報を共有し、個に応じた指導を行う一助とした。
		巡回通級等において、配慮を要する生徒に対してSST、アサーショントレーニング月1回【共】	巡回通級による指導を15回実施した	対象生徒は、自分の特性を知り、場面に応じた対処方法を学ぶことができた。
		「自分を理解し大切にしてくれる友がいる」回答生徒割合90%以上【共】	94.6%	昨年度は94.4%。なお、保健室の利用者はやや減少した。
		「目標を持ち、充実した学校生活を送っている」回答生徒割合85%以上【共】	85.4%	昨年度は88.5%。微減となったが目標をわずかに上回った。
		「学校に自分の居場所があると感じる」回答生徒割合80%以上【共】	90.1%	昨年度は90.6%。大多数の生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。
ウ	キャリア教育の展開による生徒個々の進路実現	1分間カウンセリングの実施（1、2年）【共】	1、2年生ともに実施した	1年生は5月に、2年生は11月に実施。継続面談につながった生徒もおり、相談体制を生徒に周知することができた。
		「共生・共育を通じて多様な価値観を受容する大切さがわかったと感じる」回答生徒割合80%以上【共】	88.0%	昨年度は86.4%。10月に2年生の各学級で特別支援学校との交流行事を行い、昨年度よりも交流の機会を増やすことができた。
		進学か就職かを決めている割合80%以上(1年)【共】	84.5%	昨年度は82.2%。今年度も総合的な探究の時間やLHRを通じて進路意識の涵養に努めた。
		興味のある学問・職種がある生徒の割合80%以上(1年)【共】	84.9%	昨年度は87.0%。定期的に進路行事を行うことで、生徒の興味を高めることができた。
		進学の場合の校種や内容、就職の場合の職種を決めている割合80%以上(2年)【共】	76.3%	昨年度は78.5%。進路について最も悩む学年であり、数値は低くなる傾向があるが、継続的な指導を実施した。
第一志望が確立されている割合90%以上(3年)【共】	97.2%	昨年度は97.0%。6月提出の第一志望届の提出に向けて、2年次から継続的な指導を行った結果と捉えることができる。		
		教職員による個人面談年間3回以上【共】	52.5%	長期休み明けを中心に、生活面や進路面に関する面談を行った。学級によって面談の回数に差がみられた。
		日本学生支援機構奨学金の情報提供100%【共】	100%	定期的に3年生の各学級に周知した。

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
ウ		企業及び学校訪問後に報告書を作成し、進路課、各学年部主任、3年担任との情報共有【共】	共有できた	報告書をはじめ、各種検討会では多様な学校情報について情報共有を図ることができた。
		検定等資格を活用した大学の学校推薦型選抜等による受験者数増加【商】	昨年度並み	担任・学年・進路課等の協力により、国公立大学の合格実績も出すことができた。
		職業体験参加者のうち、「職業体験は将来の生き方を考える上で有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】	90.5%	インターンシップや一日体験ナース等の職業体験に参加した生徒の大多数が有意義な体験を得ることができ、将来の進路選択にいかすことができている。
		土曜講習や長期休業中の進路講座の「受講により学力の伸びを実感したと感じる」回答生徒割合70%以上【普】	80.6%	昨年度は72.7%。生徒の多様な進路希望に対応できていると考えるが、一方で教員の働き方改革も意識しながら、継続するかどうかを検討していきたい。
エ	探究的な学びの展開	「総合的な探究の時間の取組で情報収集・分析力が身についた」回答生徒割合80%以上	88.3%	1つ目と2つ目の項目は昨年度は目標に掲げていなかったが、3つ目の項目については昨年度の77.4%を上回ることができた。今年度は、特に1年生において、身につけさせたい力を意識した計画を立案し、見通しをもった授業を実施した。また、地域連携にも意欲的に取り組むことで、生徒の力が着実に身についたとみられる。2年生においても、昨年度に身につけた力を、より一層発展させる取り組みができた。次年度は、校内委員会の拡充を図ることで、担当教員の負担軽減にもつなげたい。
		「総合的な探究の時間の取組で課題発見力、解決力が身についた」回答生徒割合80%以上	87.2%	
		「総合的な探究の時間の取組で地域活性化等自分たちの身近な課題解決に貢献したいと考えるようになった」回答生徒割合80%以上【共】	82.9%	
	地域・保護者に愛され、信頼される学校づくり	県立大学出張講義5回【商】	未実施	先方の担当教授が退官したため、後任に上手く繋ぐことができなかったことが反省である。 課題研究「観光ビジネス」と「地域戦略論」を中心に参加した。「簿記探究」では、今年度新たに日経Stockリーグへ参加した。
		外郭団体主催事業に参加【商】	参加した	
	伊東市活性化プラン発表【商】	発表した	2月21日に伊東市役所で発表会を実施。3年生課題研究「観光ビジネス」と「地域戦略論」の受講生徒が参加した。	
	ビジネスプラングランプリに参加【商】	参加	今年度も参加し、2年連続でファイナリストに選出された。	
	「課題研究」全講座で探究的内容を実施する【商】	実施	課題研究発表会で成果発表を行った。伊東市議会の議員も参観した。	

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
エ		H Pや公式X、インスタグラム随時更新【共】	随時更新ができた	学校行事ごとに最低1回は更新できた。Xのフォロワー数は500人、インスタグラムのフォロワー数は1000人を突破した。
		中学生1日体験入学に「参加してよかった」回答参加者割合80%以上【共】	98%	「参加してよかった」と回答した中学生は98%。次年度も工夫を凝らした体験入学を実施したい。
		保護者の緊急メール加入率100%【共】	100%	生徒・保護者合わせて加入率100%を達成した。ただし、昨年度の加入者名が残っていることがあったため、年度初めに改めて登録しなおしてもらう必要がある。
オ	特別活動、部活動の活性化	リーダー研修会の実施【共】	10月に実施した	本校で1泊2日の日程で実施した。活発な討論が行われ、そこで出た意見を基に、生徒会執行部が主体的に行動する契機にできた。
		「各行事は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	92.5%	生徒会執行部の生徒を中心に、生徒自身が主体となって各行事の運営を行うことができた。多くの生徒が積極的に行事に参加しようとする姿勢がみられたため、満足度が高かったとみられる。
		「修学旅行は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】	96.6%	昨年度は97.8%。訪問先や日程は昨年度と同じ。なお、今年度は生徒の参加率は100%であった。
		「部活動に積極的に参加し充実感を得ている」回答生徒割合75%以上【共】 「部活動下校午後7時」(原則)の徹底【共】	77.2% 概ね規定どおりの行動ができた	昨年度は78.3%。任意加入となる2年次以降も部活動を継続する生徒が多く、各学年の成績上位者は全員が部活動加入者であった。なお、本校の部活動ガイドラインを遵守した活動が概ねできた。
		1部活動1貢献活動【共】	達成した	朝の挨拶運動や校内外の美化活動を中心に、各部活動が積極的に取り組んだ。
カ	「育てたい力」伸長の検証	学びみらいPASSによる測定を行う。(1年)【共】	実施した	測定を実施し、個人内評価に向けたルーブリックの作成を行った。

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
キ		校内研修年 5 回以上実施【共】 授業見学週間年 2 回設定【共】	5 回実施した 実施した	授業力向上と観点別学習評価についての研修、危機管理についての研修等、計 5 回実施した。教員も活発に討論し、全教員が意欲的かつ積極的に参加した。 教科の違いを越えて生徒評価について考える機会とするため、授業見学週間を 2 回設定した。また、参観者からの意見・評価を基にした研修も実施し、授業改善につなげた。
		「ICT や一人一台端末を日常的に活用している」回答教員割合 80% 以上【共】 「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりに日常的に取り組んでいる」回答教員割合 95% 以上【共】 「一人一台端末の活用が有意義だった」回答 1、2 年生徒割合 70% 以上【共】	85.7% 82.5% 91.9%	昨年度は 83.6%。ICT 機器の扱いが得意な教員以外も活用する場面が広がった。 昨年度は 85.7%。今年度も目標に到達しなかったが、取り組みができていないと回答した教員であっても、「日常的」に取り組むことはできていないという意味合いが強い。 昨年度は 87.3%。授業や学級経営の場面で、昨年度よりも活用する場面が増加した。
		「信頼できる先生がいる」回答生徒割合 80% 以上【共】 年次別研修該当者と希望者によるチーム研修年 2 回実施【共】	81.4% 実施した	昨年度は 82.8%。さらに信頼度が高まるよう、丁寧な言葉遣いや声掛けをしていきたい。 8 つのグラデュエーションポリシーに関する生徒や学校の特性および課題を共有した。
		コンプライアンス研修を含めた職員研修を月 1 回以上実施【共】	実施した	ほぼ毎回の職員会議で実施した。また、朝の打ち合わせを利用して不定期に実施した。平均すると毎月 1 ～ 2 回の研修を実施した。
		教職員の夏季休暇完全取得 100%【共】	92.9%	取得しなかった常勤職員はいないが、完全取得できない者が数名いた。次年度も呼びかけを行う。
		「平均して週 1 回以上は勤務時間終了後 1 時間以内に退勤できた」回答教職員割合 100%【共】	44.2%	昨年度は 51.1%。部活動顧問や学級担任を中心に業務が多いため、困難な目標ではあるが、随時声掛けを行っていく。
		「平日の完全退勤時刻 20 時を原則的に守ることができた」回答教職員割合 100%【共】	75.6%	時間外在校等時間の縮減について職員会議で取り上げ、その意義を説明し、自己管理の意識をもってもらうよう依頼した。
		「職員室をはじめ新高校が働きやすい環境になるよう留意した」回答教職員割合 90%【共】	100%	昨年度は 87.8%。統合初年度の昨年度に比べて、教職員の日常的な会話も増えてきたことが一因であると考えられる。

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
ク	安心・安全で快適な教育環境の整備	危機管理マニュアルの浸透【共】	昨年度からの刷新を図った	マニュアルを見直し、職員室や事務室に配布するとともに、デジタルデータでも閲覧できる環境を整えた。
		緊急避難経路の確認【共】	確認済み	5月の避難訓練で、全校生徒・教職員が避難経路を確認した。
		定期的な施設設備の安全点検実施【共】	実施した	AEDの動作確認と合わせて、毎月1回実施した。
		AED講習の実施【共】	実施した	8月末に実施。AED研修とシミュレーション研修を行い、延べ46名の職員が参加した。
		校内、学校周辺の危険箇所の確認学期1回【共】		予定を立てて実施することはなかったが、学期に1回の確認を行った。大きな危険箇所を発見することはなかった。
		防災教育連絡会議への参加【共】	未参加	年度内に1回実施ができるように書類作成を行い、関係各所と調整をしたが、未実施である。
ク	安心・安全で快適な教育環境の整備	地域防災訓練参加率90%以上【共】	生徒4.5% 教職員21.6%	9月の総合防災訓練が多く地域で実施されなかった。12月の地域防災訓練の参加率は、生徒4.5%、教職員21.6%であり、次年度以降の呼びかけを徹底していく。
		全校防災訓練の実施【共】	実施した	5月に全校で避難訓練を実施。また、10・11月に2年生対象に消火訓練を実施した。
		消火訓練等、教職員向け実践的防災訓練の実施【共】	実施した	教職員向けにI-DEAを実施し、危機管理マニュアルの検証を行った。
ク	安心・安全で快適な教育環境の整備	一足制である校舎の美化意識を高め、清掃活動を徹底する。【共】	達成した	学期に1回大掃除を行うとともに、行事などの際には美化委員による活動も行った。また、ゴミ処理に関する掲示物を各学級に掲示し、不適切なゴミ処理事案については、教職員全体で共有したあとに生徒にも周知した。生徒の美化意識も高く、次年度も取組を継続していきたい。
		「校舎をきれいに、施設や備品を大事に使うように心がけている」回答生徒割合90%以上【共】	98.9%	
		ゴミ分別の推進【共】	生徒・教職員に周知した	
ケ	確実に効果的な学校事務執行	開校2年目で初年度に引き続き煩雑な業務が想定されるが、情報共有により、生徒、教職員の学校への満足度を高める。【共】	計画的で有効な事務処理を実施できた	昨年度よりも、事務室と教職員との連携が進んだことで、次年度以降も見通した計画や対応を行う余裕ができた。

【定時制】

(1) 令和6年度の取組目標・成果目標・達成状況・成果と課題

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
ア	<p>基本的な生活習慣を定着させるとともに、社会性を高め、他人を敬愛する心を育てる</p>	年間出席率90%以上 生徒情報共有会年間20回以上	1学期出席率93.1%、2学期出席率90.5%であった。(出席停止を除く。)生徒情報共有の機会を年20回以上設けることができた。	多くの生徒が休まず登校することが出来た。しかし、特定の生徒が数多く休むことがあるため、保護者との連携を含めた対応が必要である。
		いじめが解消されていない件数0件	いじめを認知した件数0件。生徒アンケートでいじめに関する報告0件。	いじめの認知件数は0件であったが、今後とも生徒に対する積極的な声掛けを継続し、生徒理解に努め、未然防止につなげていきたい。
イ	<p>基礎・基本の理解を深め、確かな学力に結び付けるとともに、個々の特性・志向に応じた学力の向上を目指し、授業改善を図る。</p>	授業評価アンケートの授業に対する評価8項目のうち、A評価の割合75%以上が5項目以上	A評価が75%以上だったのは、3項目であり、全項目で昨年度後期より減少した。	A評価が減少した一方で、B評価を含めると、昨年度おおむね変わらない数値であるので、今後より一層教員の授業改善に生かす必要がある。
		学力系5種目のコンクールでの平均得点率が70%を超えるものが3種目以上	全種目で平均得点率が70%を超えた。国語と化学は、80%を超えている。	引き続き、実施時期や実施内容を検討しながら、総合コンクールの充実に努めていきたい。
ウ	<p>自己や職業に対する理解を深め、自立した生活を送る意識や進路意識を育てる。</p>	各学年の生徒の就業率(アルバイトを含む)が70%以上	就業率は、1年50%、2年47%、3年67%、4年83%であった。	低学年のアルバイト等への就業率が低いから、学校生活を安定させてから、就業しようと考えている生徒も多く、生徒の実態を捉えながら、生活リズム確立の一助となるよう、適切に指導していきたい。
		アンケートで、自分の将来に対する、はっきりした夢や希望を持っていると答える生徒60%以上。	「かなり当てはまる」「まあ当てはまる」と回答した生徒は、57.5% (前年度59.4%)。	進路等に対する意識が持ちづらいという本校の課題がある。今後も「地域に学ぶ」の授業内、進路ガイダンス又はキャリア座談会等の行事を実施する過程で夢や希望を持てるよう促していきたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
エ	学校行事、生徒会活動、部活動などへの参加を促進し、心豊かな生徒を育てるとともに、自己肯定感を向上させ、自分らしさの創出を図る。	主要な学校行事、東部定時制合同文化祭への参加率85%以上	遠足88.4%、球技大会95.1%、生徒会行事（ボウリング）87.5%、合同文化祭67.5%	学校行事に意欲的に参加する生徒が多く見られた。遠足では友人と仲良くさまざまな動物を見学する姿が見られた。また、生徒会行事では、生徒会役員が当日の運営を行い、責務を果たした。一方で、部活動の活性化が望まれる。
オ	健康、安全な生活を送るため、心身の自己管理能力を向上させる	朝食摂取率40%以上 10時前起床率65%以上	朝食摂取率66.7% 10時前起床率66.6%	保健委員による呼びかけや生徒面談などでの指導により、意識して朝食を摂るようにしている生徒が増えている。 起床時間について、アルバイトをしている生徒が多いためこのような結果となったが、アルバイトをしていない生徒や休みの日の生活リズムを整えることができるよう指導していきたい。
		交通事故件数が3件以内 交通違反件数0件	交通事故・交通違反件数とも0件	引き続き、交通安全教室および二輪車グッドマナー講座等を通じて交通安全意識の醸成を図る。
カ	定時制教育に対する理解を深める	保護者アンケートで、学校に対する信頼度80%以上	学校運営や指導方法に満足している保護者の割合は、87.9%(昨年度86.1%)と同程度であった。	日頃から電話連絡を頻繁に行い、必要に応じて保護者を含めた面談を行うことにより、HR担任と保護者との信頼関係を深めることができた。また、将来について具体的なイメージを持っているかの問いについて、生徒は57.6%、子どもが持っていると思う保護者は、36.4%であった。親子ともに、将来について課題があると考えている者が少なからずいる。進路意識、職業観等、将来の進路につながる意欲や知識を向上させることにより、学校への信頼度や満足度も、結果的に向上させることができるのではないかと考えられる。
		定時制関連の記事が新聞に掲載される件数年間5回以上	本年度は、4件の行事について4回の紙面掲載があった。	部活動の結果や、行事（昨年度との兼ね合い）について、報道依頼をする機会が無く、目標回数に達することが難しかった。ただし、本年度も社会奉仕団体等に出向き、地道に定時制教育の現状を説明することができた。来年度以降も、定時制教育への理解の伸長を図るため、地道に広報活動に努めたい。

	取組目標	成果目標	達成状況	成果と課題
キ	業務改善により教員の豊かな教員人生を確保し指導の質の改善をはかる	アンケートで学校が楽しい、授業がよくわかると答える生徒80%以上	学校が楽しいと答えた割合は、72.7%(昨年度68.8%)と昨年度より微増した。また、授業がよくわかると答えた割合は、93.9%(昨年度93.8%)と昨年度と同程度であった。	アンケートで、授業がよくわかると答えた生徒の割合が93.9%と高い反面、学校生活が楽しいと答えた生徒の割合が72.7%と、昨年度に比べ微増したものの、期待したほどの伸びがなかった。学校に来る意義の明確化や、将来に対する進路意識の高揚などを図ることにより、学校に対する満足度も上がり、それに伴い、学校が楽しいと答える生徒も増加するものと考えている。
		勤務時間終了後30分以内の退勤80%以上、各職員の年休取得日数年間10日以上	最終退庁時間内での退勤率は、平均して90.5%(警備保障最終時間23時を最終退庁とした)令和6年度中の年休取得10日未満の職員は2名(6名が15日以上取得)	月45時間以上の超過勤務がある教員は2名(延べ7回)であった。夜遅くまでの超過勤務は激減した。業務の効率化や適切なスケジューリングを徹底することでより一層の超過勤務時間の減少を目指し、勤務状況の改善を目指す。 また、休暇取得をしやすい雰囲気を作り醸成するなどして、職員のワークライフバランスの充実を図りたい。

【全日制】

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

「共」：学科共通 「普」：普通科 「商」：ビジネスマネジメント科

取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
<p>ア</p> <p>確かな学力の定着とともに生徒個々の特性に応じた学力の向上</p> <p>学科、類型ごとの特色化</p>	<p>小集団や習熟度別学習集団によるきめ細かな指導や生徒アンケート（年間3回予定）を通して、新しい学びに向かうために必要な「確かな学力」を育成する。（基礎学力の定着）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・秋実施の到達度テストの再実施で学習到達度が上昇した生徒95%以上【1、2年生共】
	<p>初期指導等を通じた、学習習慣の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1日の平均家庭学習時間が最低1時間以上の生徒割合が各学年80%以上【共】
	<p>授業アンケート等を通して、生徒の学習到達度を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業がわかる」回答生徒割合80%以上【共】
	<p>スタディサプリを活用し、個に応じた学力の向上と学習習慣の定着を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「スタディサプリを活用した学習は有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】
	<p>各種検定試験や校外団体主催の論文コンテスト等への積極的挑戦を奨励する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・受検実績が1人1回以上【普】 ・卒業時検定取得2種目以上【商】 ・放課後等検定補習実施【商】
	<p>読書習慣の定着と学校図書館の利用を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・朝読書の時間設定【共】 ・一人年3冊以上の読書【共】 ・図書館を利用した授業や講座を校内全体で月3回以上実施【共】
	<p>普通科特別進学類型は、バランスのとれた確かな学力とその学びを保証し、国公立大学、難関私立大学を目指そうとする生徒の学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1月進研模試（国数英）で平均GTZがB1以上（1・2年生）の生徒70%以上、2年2月マーク模試から共通テストの得点が100点以上上昇した生徒80%以上（3年生） ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・特進】
	<p>普通科進学類型の多様な進路に応じた、適切な進学指導を充実させ、学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の好きなことや強みを理解して、進路を考えている」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上【普・進学】
	<p>普通科アート類型の教育活動の特色化と専門性の深化を図り、学習意欲向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「アート類型に設置された専門の授業により、アートの専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 ・全国レベルの大会やコンクール出場2件以上【普・アート】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア		普通科スポーツ健康類型の教育活動の特色化と専門性の深化を図り、学習意欲向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「スポーツ健康類型に設置された専門の授業により、スポーツ健康に関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 【普・ス健】
		ビジネスマネジメント科の教育活動の特色化と専門性の深化を図り、学習意欲向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・「商業科目の授業により、ビジネスに関する専門性が身についた」回答生徒割合80%以上 ・「授業や行事を通して学習意欲が上がった」回答生徒割合90%以上 ・全国レベルの大会出場2件以上 【商】
イ	心身ともに健康的で他者を思いやる生活	昇降口指導での声かけ等により、基本的な生活習慣を確立し、明るい挨拶、爽やかなマナー、きちんとした身なりを通して、伊豆伊東高生としての誇りと自覚を涵養する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「服装を正し、礼儀やマナーをわきまえて行動している」回答生徒割合90%以上【共】 ・「地域や近所の人と会うとあいさつをしている」回答生徒割合80%以上【共】
	特別支援	心身の健康に関する保健教育の充実を図り、毎月発行する保健だよりや薬物講座、AED講習を通して、生徒の健康意識や自己管理能力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取率90%以上【共】 ・年間欠席日数10日以内、遅刻早退については年間合計日数10回以内の生徒の割合90%以上【共】 ・「健康的で他者を思いやる生活ができている」回答生徒割合85%以上【共】
	学校との交流等の積極的展開	保健室、学年部、担任、副担任、相談室が連携し、悩み等を抱えている生徒や不登校傾向等の生徒に早期支援の充実を図る。いじめの未然防止と早期発見、対応を図る。情報機器マナー講座を通してSNS等の適切な利用を図る。生徒の教育的ニーズを適切に理解し、個に応じたソーシャルスキルの習得に向けた支援をする。特別活動や行事、HR活動、生徒会活動、部活動を通して、良好な人間関係づくりと自己肯定感の涵養、向社会的スキルの育成を図る。巡回通級等において、配慮を要する生徒に対してSST、アサーショントレーニングを月1回以上実施する。1、2年生に対して1分間カウンセリングを実施する。伊豆高原分校の生徒と交流を図り、共通理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活サポートシート等を活用した「生徒情報交換会」学期1回【共】 ・「悩みに応じてくれる先生がいる」80%以上【共】 ・いじめアンケートを年2回実施【共】 ・「自分を理解し大切にしてくれる友がいる」回答生徒割合90%以上【共】 ・「目標を持ち、充実した学校生活を送っている」回答生徒割合85%以上【共】 ・「学校に自分の居場所があると感じる」回答生徒割合80%以上【共】 ・「共生・共育を通じて多様な価値観を受容する大切さがわかったと感じる」回答生徒割合80%以上【共】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ウ	キャリア教育の展開による生徒個々の進路実現	3年間を見通し、進路シラバスに沿った進路指導を実践する。（分掌、学年部との連携） 個別指導を通し、卒業後までを見越したきめ細かな指導・助言に努め、個々の生徒への支援を充実させる。（3年） 教務課と学年部が連携し、進路希望に応じた奨学金情報を提供する。（3年） 積極的な企業及び学校訪問により情報の取得と共有を行い、多様化した進路希望への対応を強化する。（3年）	<ul style="list-style-type: none"> 進学か就職かを決めている割合80%以上(1年)【共】 興味のある学問・職種がある生徒の割合80%以上(1年)【共】 進学の場合の校種や内容、就職の場合の職種を決めている割合80%以上(2年)【共】 「進路実現に向けての面接指導や教員による個別指導が役に立った」回答生徒割合80%以上【3年共】
		検定等資格を活用した大学の総合型選抜や学校推薦型選抜等に挑戦させる。	<ul style="list-style-type: none"> 検定等資格を活用した大学の総合型選抜や学校推薦型選抜等による受験者数の昨年度比増加【商】
		インターンシップや一日体験ナース等の職業体験を通して将来の生き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 体験参加者のうち、「職業体験は将来の生き方を考える上で有意義だった」回答生徒割合80%以上【共】
エ	探究的な学びの展開 地域・保護者に愛され、信頼される学校づくり	3年間を見通した「総合的な探究の時間（みらい学）」の計画を策定する。 「総合的な探究の時間（みらい学）」充実のため、市役所等外部との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な探究の時間（みらい学）」の取組で情報収集・分析力が身についた」回答生徒割合80%以上 「総合的な探究の時間（みらい学）」の取組で課題発見力、解決力が身についた」回答生徒割合80%以上 「総合的な探究の時間（みらい学）」の取組で地域活性化等自分たちの身近な課題解決に貢献したいと考えるようになった」回答生徒割合80%以上【共】
		ビジネスマネジメント科での「課題研究」で産学官の連携を進め、地域課題の解決策を提案し、生徒のコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を高める。 ビジネスプラングランプリ等外部団体が主催する事業に参加する。	<ul style="list-style-type: none"> 「『課題研究』に取り組んだことでコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が高まった」回答生徒割合80%以上【3年商】
		伊東市活性化プラン等地域課題の現状を把握し、解決策を提案する。	
		学校HPや学校公式SNSを随時更新し、国内外に向けた広報活動を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 公式X、インスタグラムのフォロワー数昨年度比1.5倍。
		授業参観、公開授業、学校見学会等を推進、また中学生1日体験入学などの内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「中学生1日体験入学に参加してよかった」回答参加者割合80%以上【共】
	学校運営協議会の意見をもとに、学校運営の改善を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 「本校は、社会に開かれた学校運営がなされている」回答学校運営協議会委員80%以上【共】 	

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
オ	特別活動、部活動の活性化	生徒会活動への主体的な参加を奨励し、統合後の生徒相互の協力する雰囲気醸成する。リーダーの育成とその活性化を図る。	・「リーダー研修会に参加してリーダーとしての自覚が高まった」回答割合90%以上【共】
		文化祭、体育祭等の計画や準備を通じ、生徒の一体感を高め、各行事の充実を図る。	・「各行事は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】
		修学旅行の計画、準備を進め、充実を図る。（2年）	・「修学旅行は充実していて、成長を実感できた」回答生徒割合80%以上【共】
		部活動を奨励し、生徒が互いに人間性を高め合える場としての指導の充実に努める。また、学習と部活動の両立の実現を支援する。部活動指導員、スポーツエキスパート及び文化の匠事業による外部人材の活用を図る。	・「部活動に積極的に参加し充実感を得ている」回答生徒割合75%以上【共】 ・「部活動下校午後7時」（原則）の徹底【共】
		生徒会、部活動、自主的な活動を通じた地域貢献活動、ボランティア活動を推進する。1部活動1貢献活動を実施する。	・「生徒会、部活動、自主的な活動等を通じた地域貢献活動、ボランティア活動に参加して活動の意義を実感した」回答割合70%以上【共】
カ	データサイエンスのスキルを備えた人材を育てるカリキュラム等の構築	関係機関等との連携に係る研究、関係機関等の講師、学生等による助言を得る。教員対象校内研修を実施する。	・「データサイエンスに興味関心を持った」回答生徒割合70%以上【2年普・進学・アート】 ・「データサイエンスの手法を用いて探究的な学習に取り組むことができた」回答生徒割合50%以上【1、2年】
		普通科、ビジネスマネジメント科が学科横断的に連携した生徒対象データサイエンス入門講座の実施に係る研究を行う。 2年生普通科の科目「情報Ⅰ研究」においてデータサイエンス入門の単元設定を試行する。 「総合的な探究の時間（みらい学）」においてデータサイエンス手法を用いた探究学習を試行する。 本校のデータサイエンスに関する取組をホームページやSNSで紹介する。	
キ	「育てたい力」伸長の検証	グラデュエーション・ポリシーで示した「8つの力」の年度当初からの伸長を、学びみらいPASSや新たに作成したルーブリックを用いて検証する。	・「学びみらいPASSや新たに作成したルーブリックを用いた生徒の自己評価は生徒の成長を測定するツールとなった」回答教員割合80%以上

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ク		<p>年次別研修を中心に、授業力向上と観点別学習評価についての校内研修を実施し、個々の改善への取り組みを促す。</p> <p>校内研修を年5回以上実施する。</p> <p>授業見学週間を年2回設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「校内研修により授業力向上につながった」回答教員割合80%以上 ・「他の教員の授業見学により授業力向上につながった」回答教員割合80%以上
		<p>I C T機器や一人一台端末を活用し、主体的・対話的で深い学びを実践するための授業改善を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「I C Tや一人一台端末を日常的に活用している」回答教員割合80%以上【共】 ・「主体的・対話的で深い学びをめざす授業づくりに日常的に取り組んでいる」回答教員割合95%以上【共】 ・「一人一台端末の活用が有意義だった」回答1、2年生徒割合70%以上【共】
	教職員の資質・能力の育成と協力体制、情報化、業務改善	<p>O J T、チーム研修等を活用した「信頼できる先生」を育成する。</p> <p>年次別研修該当者と希望者によるチーム研修を年2回実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「信頼できる先生がいる」回答生徒割合80%以上【共】 ・「年次別研修に参加して有意義だった」回答教員割合80%以上
		<p>教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。</p> <p>コンプライアンス研修を含めた職員研修を月1回以上実施する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「常にコンプライアンス意識を持って職務に臨んでいる」回答教職員割合100%
		<p>勤務管理の徹底と健康維持に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の夏季休暇完全取得100%【共】 ・「平均して週1回以上は勤務時間終了後1時間以内に退勤できた」回答教職員割合100%【共】 ・「平日の完全退勤時刻20時を原則的に守ることができた」回答教職員割合100%【共】
		<p>I C T活用による校務のD X推進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「校務のD X化が年度当初より進んだ」回答教職員割合80%以上
		<p>職員室をはじめ、働きやすい環境となるよう留意する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「職員室をはじめ新高校が働きやすい環境になるよう留意した」回答教職員割合90%【共】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ケ	<p>安心・安全で快適な教育環境の整備</p>	<p>校舎の施設設備について理解を深め、事故を防ぎ、防災安全等の危機管理意識の向上に努める。 危機管理マニュアルの浸透に努める。 緊急避難経路の確認を徹底する。 定期的な施設設備の安全点検を実施する。 AED講習を実施する。 防災教育連絡会議へ参加する。 防災備品を充実させる。</p> <p>行政と連携して災害時の役割分担を明確化し、地域防災訓練等への参加を促進する。 実践的な防災訓練を実施し、防災意識の向上を図る。</p> <p>校舎の環境美化を推進し、生徒の美化意識を醸成する。 生徒が安心安全に学習や活動に取り組める教育環境を整備する。 一足制である校舎の美化意識を高め、清掃活動を徹底する。 ゴミ分別を推進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒の安心安全を第一に教育活動を実施することを意識している」回答教職員割合100% ・「安全や防災に関わる講習や研修に積極的に参加している」回答教職員割合100% <p>・生徒の地域防災訓練参加率90%以上【共】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「家庭でも大規模災害に備えている」回答生徒割合80%以上【共】 <ul style="list-style-type: none"> ・「校舎をきれいに、施設や備品を大事に使うように心がけている」回答生徒割合90%以上【共】 ・「ごみを出さない、ごみをきちんと分別する、電気をこまめに消す等、環境を守ることの大切さを理解した行動をしている」回答生徒割合80%以上【共】
コ	<p>確実に効果的な学校事務執行</p>	<p>教職員間の連携を図り、健全な校務執行と計画的で有効な予算執行を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「事務室と職員室との連携がよく取れている」回答教職員割合80%以上

【定時制】

(2) 令和7年度の取組目標・達成方法・成果目標

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	基本的な生活習慣を定着させるとともに、社会性を高め、他人を敬愛する心を育てる	家庭や関係機関との連携を密にし、生徒の学校・家庭及び職場での状況を的確に把握することで、生徒が学校に登校できるように指導の工夫を図る。	・年間出席率90%以上生徒情報の共有機会を設定する。(年間10回以上)
		特別活動、講演会等でソーシャルスキルを学び、自己肯定感を高める。	・認知したいじめについて、未解決の件数0件
イ	基礎・基本の理解を深め、確かな学力に結び付けるとともに、個々の特性・志向に応じた学力の向上を目指し、授業改善を図る。	授業のユニバーサルデザイン化や主体的・協働的な学びの視点からの授業の見直し等、指導方法の創意工夫に努める。	・授業評価アンケートの授業に対する評価8項目のうち、A評価の割合75%以上が5項目以上
		「高校生のための学びの基礎診断」の趣旨を踏まえ、学習意欲を喚起し各教科の基礎学力を測る「総合コンクール」の充実に努める。	・学力系5種目のコンクールでの平均得点率が70%を超えるものが3種目以上
ウ	自己や職業に対する理解を深め、自立した生活を送る意識や進路意識を育てる。	面接週間等を活用し、生徒の就業状況を把握するとともに、未就業者に対する指導の工夫を図る。	・各学年の生徒の就業率(アルバイトを含む)が70%以上
		進路ガイダンス(就職、進学説明会)や社会人との座談会を実施し、低学年から自己理解を深め、進路意識を高める。	・アンケートで、自分の将来に対する、はっきりした夢や希望を持っていると答える生徒60%以上
エ	学校行事、生徒会活動、部活動などへの参加を促進し、心豊かな生徒を育てるとともに、自己肯定感を向上させ、自分らしさの創出を図る。	遠足や球技大会、生徒会行事などの学校行事や東部定時制合同文化祭への積極的な参加を促し、自己啓発の機会を与える。	・主要な学校行事、東部定時制合同文化祭への参加率85%以上
オ	健康、安全な生活を送るため、心身の自己管理能力を向上させる	保健教育や啓発活動等により、生徒の健康に対する意識を高めるとともに、健康観察や各種保健調査により生徒の健康状態を把握し、働きながら学ぶ生活を実現する上で適切な指導を行う。	・朝食摂取率40%以上 ・10時前起床率65%以上
		交通安全教室・二輪車グッドマナー講習会や交通事故防止啓発資料の配布等により、安全意識を高める。	・交通事故件数が3件以内 ・交通違反件数0件

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
カ	定時制教育に対する理解を深める	保護者、地域に対する情報提供を充実させるとともに、保護者学校評価アンケートを実施し検証する。	・保護者アンケートで、学校に対する信頼度80%以上
		定時制教育を理解してもらうため、新聞等に積極的に発信していく。	・定時制関連の記事が新聞に掲載される件数年間5回以上
キ	業務改善により教員の豊かな教員人生を確保し指導の質の改善をはかる	生徒間の円滑な人間関係の構築によりトラブルを減少させ、自己研鑽や生徒との関わりの時間を作り出す。	・アンケートで学校が楽しい、授業がよくわかると答える生徒80%以上
		業務の整理を図り、定時退庁に結び付ける。 年次有給休暇の取得日数の増加を目指す。	・最終退庁時間内での退勤80%以上 ・各職員の年休取得日数年間16日以上

4 監査対象期間における特色ある取組

【全日制】

年 度	取組概要	成果及び課題
令和 6年度	<p>(1) 専門的指導、多忙化解消に向けて「学校運営支援」（「スポーツ・エキスパート」「文化の匠」「学習支援員」）を活用し、教職員の負担軽減に取り組んだ。</p> <p>(2) 各学年対象の進路ガイダンスの実施</p> <p>(3) 各種の進路関係のプロジェクトの実施による進路意識の醸成への取組み</p> <p>(4) 共生の意義を理解し、生徒の主体性を重視した伊豆高原分校との交流活動を企画し、実施する。</p> <p>(5) スポーツ健康類型における各種スポーツへの取組み・参加</p> <p>(6) 生徒の心理的ケアの実施</p> <p>(7) 除草作業の実施</p>	<p>(1) 卓球部と合唱部で外部指導者を活用し、部活動顧問の負担軽減につなげることができた。また、非常勤講師に放課後講習と小論文指導を依頼し、職員の負担軽減につなげた。</p> <p>(2) 1年生を対象に、地元商工会議所が協力した職業ガイダンスを実施した。地元企業29社が参加し、1人の生徒につき3社が説明にあたった。また、2・3年生を対象とする進路ガイダンスも実施した。</p> <p>(3) 教育（教員志望者）、看護（看護師希望者）、キャリア（理系希望者）、保育（保育士希望者）の各プロジェクトを実施している。大学等とも連携し、キャリア教育を向上させた。</p> <p>(4) 年度当初、1年部で伊豆高原分校の教諭を講師とする共生共育ガイダンスを実施した。また、文化祭や体育祭では可能な範囲で両校の生徒が参加し、共同して活動する場面を作るなどして生徒同士の交流を図ることができた。</p> <p>(5) 地元のゴルフ協会の協力による、プロによる指導を経て、6月からは数回にわたりゴルフコースでプレーした。7月には地元祭典でのタライ乗り競争に参加した。10月には1泊2日のキャンプ実習を実施する予定。</p> <p>(6) 5月に全1年生を対象とする1分間カウンセリングを行い、入学後の学校生活についての聞き取りを実施した。また、4月に全学年を対象とするセルフケア実態調査を行い、生徒の心身の状況の把握に努めた。</p> <p>(7) 5月中旬に2年生が校内の除草作業を行い、下旬にはPTA奉仕作業を行った。保護者約50人と多くの部活動の有志が加わり、約200袋分の除草を行うことができた。</p>

<p>(8) 情報機器マナー講座の実施による、SNS等の利用時の危険の察知</p> <p>(9) 「行きたい学校づくり」推進事業の初年度取り組み</p>	<p>(8) 5月に全生徒及び教職員を対象とする講座を行った。聴講者の89.3%が役立ったという感想を持ち、今後の行動に気を付けようという意識が高まった。</p> <p>(9) 本校は「地域大学等との連続性」の「データサイエンスのスキルを備えた人材を育てるカリキュラム構築」に採用された。初年度にあたる今年度は、校内委員による、大学や先進校への視察を通して、校内体制の構築と次年度以降の具体的事業計画を立てることを目標に進める。また、全校対象の「県内全地区における探究コンソーシアムの構築」では、拠点校の三島北高校と連携しながら、次年度以降の本校の総合的な探究の時間のあり方を検討していく。</p>
--	---

年 度	取組概要	成果及び課題
令和 7年度	<p>(1) スポーツ健康類型における各種スポーツへの取組み・参加</p> <p>(2) 各学年対象の進路ガイダンス等の実施</p> <p>(3) 生徒の心身の状態の把握と健康に関する保健教育の充実</p> <p>(4) 共生の意義を理解し、生徒の主体性を重視した伊豆高原分校との交流活動の企画・実施</p> <p>(5) ICT活用による公務のDX推進及び授業改善への取組み</p> <p>(6) PTA活動の見直しによる省力化</p>	<p>(1) 今年度も地元ゴルフ協会の協力によりプロからの指導を受け、6月からは数回にわたりゴルフコースでプレーした。昨年度はキャンプ実習を実施したが、今年度は7月にマリンスポーツ実習を行い、シーカヤックやシュノーケリング等を体験した。体育祭では、授業の一環として同類型の生徒が一から考案した種目を採用し、実施した。</p> <p>(2) 1年生を対象に、地元商工会議所が協力した就職ガイダンスを6月に実施した。地元企業21社が参加し、1人の生徒につき2社が説明にあたった。また、2・3年生を対象とする進路ガイダンスも例年通り実施した。</p> <p>(3) 例年実施してきた学校生活サポートシートや1分間カウンセリングに加え、全校生徒を対象とする「こころの健康観察」を新たに実施し、生徒の心身の状態を把握する機会や方法を増やした。いじめや不登校傾向にある生徒の把握と情報共有を効果的に図るため、毎週、関係職員によるケース会議を開催できるように時間を確保した。</p> <p>(4) 年度当初に伊豆高原分校の教諭を講師とする共生共育ガイダンスを今年度も実施した。文化祭や体育祭における交流の機会を増やし、体育祭では合同で参加できる種目を増やすことができた。今年度から防災避難訓練を伊豆高原分校と共同実施し、避難経路等の確認を行った。</p> <p>(5) 文書事務効率化の一つとして「書誌情報DB」を導入し、起案をDB上で行うよう変更した。日経テレコン（静岡新聞DB）を導入し、主に商業科目の授業で使用できる環境を整えた。</p> <p>(6) PTA主催の土曜講習を廃止し、スタディサプリ等の活用による学力の向上と学習習慣の定着化を図った。従来は外部会場で実施していた3年生保護者向けの進路講演会及び進路説明会をPTA総会と同日に実施するよう変更した。</p>

<p>(7) 広報活動の充実化</p> <p>(8) 「行きたい学校づくり」推進事業の2年目の取組み</p> <p>(9) 学校業務の見直しによる業務改善への取組み</p>	<p>(7) 本校の動向を知らせるニュースレターを不定期に発行し、中学校へ配布した。学校案内を大幅にリニューアルし、中学生により一層訴求する構成とした。従来実施してきた中学生一日体験入学やオープンスクールに加え、平日の放課後に中学生や保護者が主に部活動を見学できる日を2日間設定した。</p> <p>(8) 本校は「データサイエンスのスキルを備えた人材を育てるカリキュラム構築」に取り組んでおり、昨年度の各校視察で学んだデータサイエンスの手法を、商業科目の授業で試行的に導入した。総合的な探究の時間における事前調査等の際にデータサイエンスの手法を採り入れるように努めた。全校対象の「県内全地区における探究コンソーシアムの構築」では、拠点校の三島北高校と連携しながら、本校の総合的な探究の時間のあり方を刷新した。</p> <p>(9) 2年生の遠足を廃止し、1・3年生の遠足の日保育体験実習を行うことで行事の精選を図った。昨年度は1年生の全員参加としていた野球応援を、今年度は有志の参加とした。従来は3年部職員や進路指導課職員が担当していた生徒自習室の退室管理を、全教員が担う管理当番が実施するような変更をした。</p>
--	---

【定時制】

年度	取 組 概 要	成 果 及 び 課 題
令和 6年度	<p>(1) 欠課時数超過者、成績不振者に対し長期休業中に補習授業を実施する。</p> <p>(2) 生徒理解を深めるため、年間2回の面接週間及び1年生の家庭訪問を実施するとともに、困り感を強く持つ生徒について外部機関と連携して対応する。</p> <p>(3) 生徒生活体験発表、合同文化祭に向けた活動を通して、文化的活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 進路ガイダンス・キャリア座談会を活用し、進路意識の高揚を図る。</p> <p>(5) 学校行事の活性化を通して、生徒のコミュニケーション能力の育成や、達成感・一体感等を生徒が得られるようにする。</p>	<p>(1) 夏季休業中の補習については、大半の生徒が、自身の理解不足を解消しようと、しっかり取り組むことができた。また2学期に入ってから、放課後、苦手科目の学習に、自主的に励む生徒が増加し、定期試験において成果を上げる生徒も多く出た。</p> <p>(2) 生徒それぞれの困り感や困難の状況に応じて、外部機関（伊東市子育て支援課、社会福祉課等）と連携し、指導に取り組み、そこで得た情報を共有して、生徒の指導につなげることができた。</p> <p>(3) 校内生活体験発表、東部大会にとも充実した発表、取組ができた。本校においては、人前で発表する機会などなかった生徒が大半であり、自身の経験を話すことができたことは、大変有意義な機会であった。また、合同文化祭に向け、継続的に活動することもできた。</p> <p>(4) 6月に専門学校数校を招き、進路ガイダンスを実施した。5月から12月にかけて、地域の社会人を招き、各学年で座談会を実施した。生徒の職業観の育成等につながった。</p> <p>(5) 定時制の生徒の多くは、学校行事の参加経験が乏しく、達成感等を得ずに進学してきている生徒が多いため、本校における学校行事には特に大きな意義がある。これまでの学校行事を見ると、多くの生徒が積極的に、意欲的に参加することができた。当然として、生徒の達成感や、学年を超えた一体感、生徒間のコミュニケーション能力の向上等の成果につながった。</p>

年度	取組概要	成果及び課題
令和 7年度	<p>(1) 欠課時数超過者、成績不振者に対し長期休業中に補習授業を実施する。</p> <p>(2) 生徒理解を深めるため、年間2回の面接週間及び1年生の家庭訪問を実施するとともに、困り感を強く持つ生徒について外部機関と連携して対応する。</p> <p>(3) 生徒生活体験発表、合同文化祭に向けた活動を通して、文化的活動の活性化を図る。</p> <p>(4) 進路ガイダンス・キャリア座談会を活用し、進路意識の高揚を図る。</p> <p>(5) 学校行事の活性化を通して、生徒のコミュニケーション能力の育成や、達成感・一体感等を生徒が得られるようにする。</p>	<p>(1) 成績の振るわない生徒には、日々の授業での声掛けや、自身の状況の把握など、早い段階での指導を行っている。中間試験後に自身の理解不足を再認識し、放課後に自主的に学習に励む生徒や、授業への取り組みが改善される生徒などが出てきている。一方で、欠席や遅刻、欠課時数が多い生徒についても、早い段階から指導を行っているが、なかなか改善に結び付かないのが課題である。</p> <p>(2) 生徒それぞれの困り感や困難の状況に応じて、外部機関（伊東市子育て支援課、社会福祉課等）と連携し、指導に取り組んでいる。また、各学年で行った面接について、その内容を共有する場を設け、職員の共通認識に基づく、指導に結び付けている。</p> <p>(3) 7月の校内生活体験発表に向け、6月から原稿作成に取り組んだ。今までの自分を振り返り、これからを考える良い機会となっている。また、合同文化祭に向け、まずは生徒会から動き始めている。自分たちで考えて行動するように、生徒会担当も指導している。そのため、自らの意見を持って取り組むことができている。</p> <p>(4) 6月に専門学校数校を招き、進路ガイダンスを実施した。また、5・6月に、地域の社会人を招き、各学年で座談会を実施した。生徒の職業観の育成等につながっているものと考えている。</p> <p>(5) 定時制の生徒の多くは、学校行事の参加経験が乏しく、達成感等を得ずに進学してきている生徒が多い。そのため、本校における学校行事には特別な意味がある。これまで実施した主な学校行事は、対面式・遠足・球技大会などであるが、多くの生徒は、積極的・意欲的に参加している。8月以降も学校行事を大切にし、生徒の達成感や、学年を超えた一体感、生徒間のコミュニケーション能力の向上等を図りたい。</p>

5 教職員について

(1) 令和6年度異動状況

区分	職名	本務職員										臨時・会計年度任用職員							合計				
		教育職員						行政職員				本務計	教諭(臨)	養護教諭(臨)	実習助手(臨)	外国語指導講師	非常勤講師	非常勤労務職員		スクールカウンセラー	小計		
		校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	小計	事務長	主査	主事											小計	
全日制	転出				8			8	1	1		2	10									0	10
	退職				1			1				0	1	2	1	1			3	2	1	10	11
	再任用(退職)				2			2				0	2									0	2
	転入				7			7	1		1	2	9									0	9
	新任				1			1				0	1	2					2	1	1	6	7
	再任用(新任)				1			1				0	1									0	1
	差引増減				▲2			▲2	0	▲1	1	0	▲2	0	0	▲1	▲1		▲1	▲1	0	▲4	▲6
定時制	転出			1	1			2				0	2		1							1	3
	退職							0				0	0									0	0
	再任用(退職)							0				0	0									0	0
	転入							0				0	0									0	0
	新任			1	1			2				0	2		1							1	3
	再任用(新任)				1			1				0	1									0	1
	差引増減			0	1			1				0	1		0							0	1

(2) 現員数

(令和7年7月31日現在)

	本務職員										臨時・会計年度任用職員							合計		
	教育職員						行政職員				本務計	教諭(臨)	養護教諭(臨)	外国語指導講師	非常勤講師	非常勤労務職員	スクールカウンセラー		小計	
	校長	副校長	教頭	教諭	養護教諭	実習助手	小計	事務長	主査	主事										小計
全日制	1	1	1	45	2	2	52	1	2	2	5	57	2	0	1	13	2	2	20	77
定時制	0	0	1	8	0	0	9	0	0	1	1	10	0	1	0	4	0	0	5	15

(3) 健康管理について

【全日制】

- ア 生活習慣病や指定年齢健診、人間ドックなどを確実に受診するよう指導した。病気の早期発見・早期治療に繋げるため、精密検査、治療が必要な教職員は全員再検査を受診するように勧めた。体調に変化があった教職員には継続的に体調を確認した。教職員ストレスチェック検査受検を徹底し、メンタルヘルス不調を未然に防ぐ対策を講じた。
- イ 「勤務時間管理システム」への記録をとおして自身の勤務実態の把握と勤務時間管理への意識涵養に努めた。また、管理職による声かけを随時行い、教職員の心身の健康状態の把握を行った。
- ウ 職員安全衛生委員会を効果的に利用して、教職員が心身ともに健康で元気に働ける環境づくりや、一人で仕事の悩みを抱えず何でも気軽に相談できる職場の雰囲気づくりに努めた。

【定時制】

- ア 生活習慣病健診や指定年齢健診、人間ドックの受診により、異常等の早期発見に努めた。養護教諭の積極的な働きかけにより、精密検査や再検査が必要な全職員の受診に努めた。
- イ 教職員が互いに連携し合い、業務を分担しているため、業務量の極端な偏りはなく、時間外在校等時間も減少傾向にある。一方で、教職員数に変わりはないため、個々の業務量の大幅な削減には至っていない。
- ウ 教職員が心身ともに健康に勤務できるよう環境整備に努めた。特に、年休を取得しやすい雰囲気作りや、適正な勤務時間の割振り等、教職員の心身の健康を意識した勤務時間の適正化を目指した。また、経験年数の少ない職員が多いため、教職員のストレスチェック検査の受検徹底と何でも相談できる雰囲気作りに努めた。

(4) 教職員の研修について

【全日制】

	令和6年度	令和7年度
目的	<p>伊豆伊東高校のミッションとポリシーを共有し、協働的な組織体制・信頼体制を構築する（よりよい学校をつくる）。理由としては、統合して2年目である伊豆伊東高校の教育目標・スクールミッションを具現化していくためには、すべての教職員による集団意思形成が不可欠である。すなわち、全教職員が現状について同じ認識をもち、同じ目標を共有し、同じ手段を有効かつ適切であると考えて行動することが肝要であるため。</p>	<p>伊豆伊東高校のミッションとポリシーを共有し、協働的な組織体制・信頼体制を構築する（よりよい学校をつくる）。理由としては、統合して3年目である伊豆伊東高校の教育目標・スクールミッションを具現化していくためには、すべての教職員による集団意思形成が不可欠である。すなわち、全教職員が現状について同じ認識をもち、同じ目標を共有し、同じ手段を有効かつ適切であると考えて行動することが肝要であるため。</p>
研修の内容及び成果	<p>授業見学週間に一人でも多くの教員に授業見学を促す目的で、各教科代表者に公開授業を実施依頼し、授業者による生徒が主体性であるかどうかに関するABCの評価が、見学者の目にもどう映るのか、校内研修で協議した。</p> <p>定期訪問における研修として観点別評価に焦点を当て、教科における配慮事項や事例紹介を依頼した。</p> <p>年次別研修者によるチーム研修では、本校の8つのグラデュエーション・ポリシーと照らし合わせて、実際に生徒の発言や行為において、どの場合でどの力が身についたのかについて話し合った。</p>	<p>授業見学週間に一人でも多くの教員に授業見学を促す目的で、各教科代表者に公開授業を実施依頼し、見学者に感想を提出させた。</p> <p>データサイエンス委員会と連携し、データサイエンスの手法を教育活動に生かすための資質能力向上に関する校内研修を実施する。総合的な探究検討委員会と連携し、データサイエンスの活用に関する研修を実施した。</p> <p>前年度の課題であった、主体的に学習に取り組む態度の評価基準について、総合教育センターの指導主事を招き、各教科で評価する際、授業における留意点を話し合った。</p> <p>定期訪問では、効果的なICT活用に関する校内研修を実施する予定である。</p> <p>年次別研修におけるチーム研修では、本校の8つのグラデュエーション・ポリシーにおいて、どの力が伸びているのかについて話し合った。</p>
課題	<p>昨年度の研修を通して、大半の教科や研修員は前向きに、個々の質を高めていくことができた。本年度本校3学年の生徒構成図は、旧伊東高校、旧伊東高校城ヶ崎分校、旧伊東商業高校それぞれから来た者で構成されており、1・2学年は伊豆伊東高校の生徒で構成されている。本校の教育目標を、昨年度から本校に勤務する教員は言うまでもなく、本年度異動してきた教員も含め、全体で理解・共有できる集団を目指す必要がある。また、チーム研修で本校の8つのグラデュエーション・ポリシーの妥当性についても引き続き議論していく。一年目と二年目の研修が、定期訪問とその後の校内研修を通して一つにまとまった。ただし主体性の評価基準が教科によって調整が必要であるとわかった。</p>	<p>開校以来、本年度全学年が伊豆伊東高校の生徒で構成されたが、コースが多く存在すること、普通科とビジネスマネジメント科が存在することから、教員の意思統一をはかりにくいことが想定される。しかし、研修に前向きな教員が多く、学校のために生徒のためといったベクトルは統一されており、各種委員会や他の組織の協力が非常に多く得られている。このため、本校の研修は日々進化し続けていると実感する。今後の課題としては、本年度取り入れたデータサイエンスに関する研修が授業実践で生かしているのかを追跡調査することである。</p>

【定時制】

	令和6年度	令和7年度
目的	今年度改訂されたスクールポリシー、特にグラデュエーション・ポリシーに準拠した教育活動を展開できるよう、教育活動の位置づけ等を見直し、整理するため。	定時制では発達障害や学習障害など多様な特性を持つ生徒が学びやすい授業づくりが欠かせない。各教科1名の教員しかいないうえに教員の入れ替わりも早く、授業づくりの方法が引き継がれにくい定時制の環境では、定期的に授業づくりの方法を学ぶことが必要となるため。
研修の内容及び成果	<p>授業見学月間において、授業等が、育成したい「8つの力」とどのように関連しているか省察する研修、定期訪問による研修会及び研修会を踏まえた実際の教育活動の位置づけを検討する研修を実施した。</p> <p>授業見学月間を、6月・10月に実施し、多くの教員が、授業において育成したい「8つの力」のいずれかに結びついていることを自覚することができた。</p>	<p>日ごろからの生徒とのやりとりや生徒の様子の観察、定期的な個別面談などの情報を共有して、個々の生徒の理解を進めたうえで、学校が生徒にとって安心・安全な居場所となるために、すべての生徒が「わかる」「できる」を実感できるような個別最適な授業づくりについて整理していく。</p> <p>具体的には、授業見学期間を通じて相互に授業を参観し、授業改善に向けて助言・フィードバックしあう。また、各学期末に実施する授業アンケート内容をもとに授業づくりについて検討していく。加えて、定期訪問の校内研修においても、「発達支持的な生徒指導の充実」をテーマに洞察を深め、教員個々が自らアクションを起こすための契機とする。</p>
課題	研修を通じてアイデア出ししたことを実際のアクションにつなげることが十分できていない。	<p>授業づくりのフレームについて共通意識は持てるが、各教科が一人区のため、教科特有の指導について深まりづらいことが考えられる。</p> <p>小中学校での学習経験の違いや知的能力に非常に大きな差があるため、1つの評価規準で落ちこぼれと吹きこぼれが出ないようにする授業づくりに困難さがある。</p>

6 防災対策について

【全日制】

令和6年度

(1) 防災計画書、消防計画書による防災訓練等

実施日	対 象	訓 練 内 容
5月8日	全校生徒、全職員	地震避難訓練、地区別帰宅訓練
9月1日	全校生徒、全職員	総合防災訓練参加
10月25日 11月2日	全校生徒、全職員	消火・通報・避難訓練
12月1日	全校生徒、教職員	地域防災訓練

(2) 防災教育推進のための連絡会議

10～11月中に、伊豆伊東高校と伊豆高原分校合同の防災教育推進のための連絡会議を計画していたが、連絡会議として実施ができなかった。その代わりに、伊東市危機対策課職員・吉田地区長をそれぞれ2月に本校に招き、本校の現状を説明。令和7年度に連絡会を実施する方向で話し合いを終えた。

令和7年度

(1) 防災計画書、消防計画書による防災訓練等

実施日	対 象	訓 練 内 容
5月7日	全校生徒、全職員	地震避難訓練、地区別帰宅訓練
9月1日～ 11月16日	全校生徒、全職員	総合防災訓練参加
11月5日	全校生徒、全職員	煙体験による避難訓練、わたしの避難計画作成、 防災講座
11月30日	全校生徒、教職員	地域防災訓練

(2) 防災教育推進のための連絡会議

10～11月中に、伊豆伊東高校と伊豆高原分校合同の防災教育推進のための連絡会議を計画。伊東市危機対策課・吉田地区の自主防災に関わる方にも参加を依頼する。

【定時制】

令和6年度

(1) 防災計画書、消防計画書による防災訓練等

実施日	対 象	訓 練 内 容
9月6日	全校生徒、全職員	地震避難訓練、地区別帰宅訓練

令和7年度

(1) 防災計画書、消防計画書による防災訓練等

実施日	対 象	訓 練 内 容
8月28日	全校生徒、全職員	地震避難訓練、地区別帰宅訓練

7 学校開放について

本校は定時制併設のため平日夜間の施設開放は行っていない。また、週休日については、文化部・運動部共に部活動が盛んなため、学校開放を行っていない。

事務執行の根拠法令調

項 目	根 拠 法 令
1 学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第50条、第51条、第52条、第53条、第60条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立高等学校学則 高等学校学習指導要領 理科教育振興法（第11条） 理科教育振興法施行令 産業教育振興法（第18条） 産業教育振興法施行令
2 学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） いじめ防止対策推進法（第2条、第8条、第22条、第28条） 学校保健安全法（第15条、第27条） 静岡県教育委員会職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法（第3条、第4条） 静岡県教育委員会処務規程 静岡県教育委員会事務決裁規程 高等学校等就学支援金の支給に関する法律 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行令 高等学校等就学支援金の支給に関する法律施行規則 高等学校等修学支援事業費補助金（奨学のための給付金）交付要綱 静岡県公立高等学校学び直し支援金事務処理要領 静岡県立学校の授業料等の徴収に関する条例 静岡県立学校授業料等徴収規則 静岡県手数料徴収条例 静岡県税外収入の督促等に関する条例 静岡県高等学校等教育資金及び高等学校等奨学金貸与規則 高等学校遠距離通学費補助金交付要綱 静岡県情報公開条例施行規則 独立行政法人日本スポーツ振興センター法（第16条、第17条） 社会教育法（第43条、第44条、第45条、第47条） 静岡県高等学校定時制課程及び通信制課程修学資金貸与規則 静岡県高等学校定時制の課程及び通信制の課程修学補助金交付要綱

学 校 施 設 の 概 要

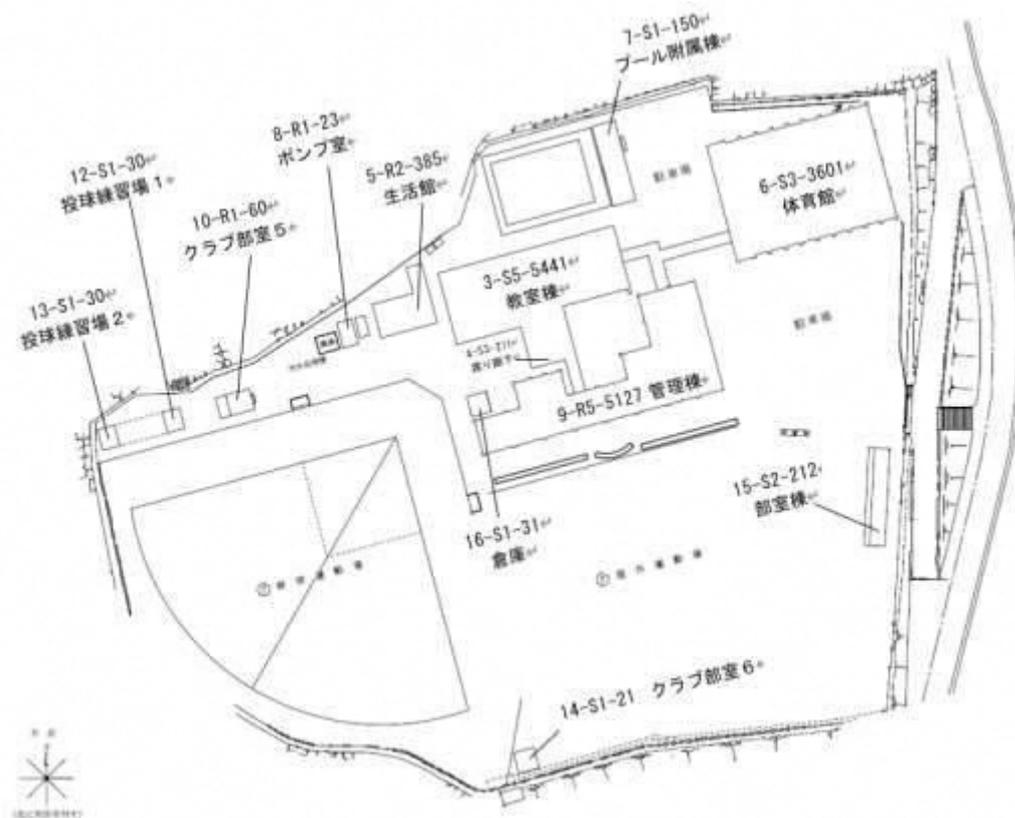
1 面積及び所有区分

(令和7年7月31日現在)

区 分	面 積 m ²	所 有 内 訳					摘 要
		県有 m ²	国有 m ²	市町村有 m ²	後援会有 m ²	民有 m ²	
学 校 敷 地	43,830.56	43,830.56					
内 訳	校舎敷地	11,623.06	11,623.06				
	運動場敷地	19,164.50	19,164.50				
	その他の敷地	13,043.00	13,043.00				
校 舎	建 2,554.88 延 10,567.52	建 2,554.88 延 10,567.52					
体 育 館	建 1,677.39 延 3,600.78	建 1,677.39 延 3,600.78					
武 道 場	建 - 延 -	建 - 延 -					
その他の建物	建 524.02 延 555.12	建 524.02 延 555.12					
生 活 館	建 192.45 延 384.90	建 192.45 延 384.90					
プ ー ル	1 基	1 基					
職 員 住 宅	45 戸	45 戸					

2 配置・規模等

(1) 校舎等の配置図



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区 分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当 校	43,830.56 m ²	10,567.52 m ²	19,164.50 m ²
県 平 均	45,574.48 m ²	9,782.41 m ²	22,506.84 m ²

在 籍 生 徒 調

(全日制)

(令和7年7月31日現在)

学年	学科別		全日制普通科				全日制ビジネスマネジメント科				(合 計)			
	区分		定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計	定員	男子	女子	計
1年	入 学 者		160	67	69	136	80	32	35	67	240	99	104	203
		増 加												
		減 少												
	現 在			67	69	136		32	35	67		99	104	203
2年	入 学 者		160	73	87	160	80	39	45	84	240	112	132	244
		増 加												
		減 少			2	2		2		2		2	2	4
	2年時当初			73	85	158		37	45	82		110	130	240
		増 加												
		減 少												
現 在			73	85	158		37	45	82		110	130	240	
3年	入 学 者		160	59	79	138	80	39	40	79	240	98	119	217
		増 加												
		減 少		2	5	7						2	5	7
	2年時当初			57	74	131		39	40	79		96	114	210
		増 加												
		減 少			2	2			1	1			3	3
	3年時当初			57	72	129		39	39	78		96	111	207
		増 加												
減 少														
現 在			57	72	129		39	39	78		96	111	207	
合 計				197	226	423		108	119	227		305	345	650

在 籍 生 徒 調

(定時制)

(令和7年7月31日現在)

学年	学科別		普通科				
	区分		定員	男子	女子	計	
1年	入学者		40	8	3	11	
		増加		-----	-----	-----	
		減少					
	現在				8	3	11
2年	入学者			40	5	7	12
		増加		-----	1	1	
		減少					2
	2年時当初				3	6	9
		増加		-----	-----	-----	-----
		減少					
現在				3	5	8	
3年	入学者		40	12	4	16	
		増加		-----	-----	-----	
		減少					
	2年時当初				12	4	16
		増加		-----	-----	-----	-----
		減少					
	3年時当初				11	4	15
		増加		-----	-----	-----	-----
減少		1					
現在			10	4	14		
4年	入学者		40	8	3	11	
		増加		-----	-----	-----	
		減少					2
	2年時当初				6	2	8
		増加		-----	-----	-----	-----
		減少					
	3年時当初				7	2	9
		増加		-----	-----	-----	-----
		減少					
	4年時当初				6	2	8
	増加	-----		-----	-----	-----	
	減少		-----				-----
現在			6	2	8		
合 計				27	14	41	

入学志願者及び入学者数調

全日制

区 分		令和5年度		令和6年度		令和7年度	
学 科 別		普通科	ビジネス スマネジ メント科	普通科	ビジネス スマネジ メント科	普通科	ビジネス スマネジ メント科
生徒定員(A)		160	80	160	80	160	80
募集者数(B)		160	80	160	80	160	80
志願者数	男	58 (1)	39 (0)	76 (0)	46 (0)	65 (2)	33 (0)
	女	78 (1)	40 (0)	92 (0)	50 (0)	69 (0)	34 (1)
	計(C)	136 (2)	79 (0)	168 (0)	96 (0)	134 (2)	67 (1)
受検者数	男	58 (1)	39 (0)	76 (0)	45 (0)	65 (2)	32 (0)
	女	78 (1)	40 (0)	92 (0)	50 (0)	69 (0)	34 (1)
	計(D)	136 (2)	79 (0)	168 (0)	95 (0)	134 (2)	66 (1)
合格者数	男	58 (1)	39 (0)	73 (0)	39 (0)	65 (2)	32 (0)
	女	78 (1)	40 (0)	87 (0)	45 (0)	69 (0)	34 (1)
	計(E)	136 (2)	79 (0)	160 (0)	84 (0)	134 (2)	66 (1)
志願倍率(C)/(B)		0.85	0.99	1.05	1.20	0.84	0.84
受検倍率(D)/(B)		0.85	0.99	1.05	1.19	0.84	0.83
入学者数	男	59	39	73	39	67	32
	女	79	40	87	45	69	35
	計(F)	138	79	160	84	136	67
充足率(F)/(A)		0.86	0.99	1.00	1.05	0.85	0.84

入学志願者及び入学者数調

定時制

区 分		令和5年度	令和6年度	令和7年度
学 科 別		普通科	普通科	普通科
生徒定員(A)		40	40	40
募集者数(B)		40	40	40
志願者数	男	12 (0)	5 (0)	5 (3)
	女	4 (0)	7 (1)	3 (0)
	計(C)	16 (0)	12 (1)	8 (3)
受検者数	男	12 (0)	5 (0)	5 (3)
	女	4 (0)	7 (1)	3 (0)
	計(D)	16 (0)	12 (1)	8 (3)
合格者数	男	12 (0)	5 (0)	5 (3)
	女	4 (0)	7 (1)	3 (0)
	計(E)	16 (0)	12 (1)	8 (3)
志願倍率(C)/(B)		0.40	0.30	0.20
受検倍率(D)/(B)		0.40	0.30	0.20
入学者数	男	12	5	8
	女	4	7	3
	計(F)	16	12	11
充足率(F)/(A)		0.40	0.30	0.28

卒業生の動向調

1 進路状況

(全日制)

学 科 別		普通科		ビジネスマネジメント科		(計)		
年 度		5年度	6年度	5年度	6年度	5年度	6年度	
卒業生徒数		122	113	79	78	201	191	
内 訳	(進学志願者)	(113)	(102)	(50)	(56)	(163)	(158)	
	進 学 者	大学・短大	73	75	19	23	92	98
		専修・各種学 校等	36	25	31	33	67	58
		小 計	109	100	50	56	159	156
	就職者	9	10	26	21	35	31	
	自営者	0	0	0	0	0	0	
	進学準備者	4	2	0	0	4	2	
	その他	0	1	3	1	3	2	
合 計		122	113	79	78	201	191	

(定時制)

学 科 別		普通科		
年 度		5年度	6年度	
卒業生徒数		8	6	
内 訳	(進学志願者)	(1)	(0)	
	進 学 者	大学・短大	0	0
		専修・各種学 校等	1	0
		小 計	1	0
	就職者	6	5	
	自営者	0	0	
	進学準備者	0	0	
	その他	1	1	
合 計		8	6	

2 求人状況 (全日制のみ)

区 分	5年度	6年度
就職希望者数	30	31
求 人 数	328	332
求人倍率	10.9	10.7

学 科 別		ビジネスマネジメント科
卒 業 生 徒 数		78人
主 催 団 体・検 定 名	取 得 級	取 得 人 数
日本商工会議所 簿記検定	2級	5
	3級	2
全国経理教育協会 簿記能力検定	3級	78
全国商業高等学校協会 簿記実務検定	1級	16
	1級(会計)	1
	1級(原価計算)	2
	2級	16
全国商業高等学校協会 ビジネス計算実務検定	1級 電卓	10
	1級(普通計算) 電卓	5
	1級 珠算	1
全国商業高等学校協会 ビジネス文書実務検定	1級	11
	1級(文書)	5
	2級	24
	2級(速度)	2
	2級(文書)	15
全国商業高等学校協会 情報処理検定	1級 ビジネス情報	6
	1級 プログラミング	15
	2級 ビジネス情報	3
	3級	56
全国商業高等学校協会 英語検定	2級	3
	3級	44
全国商業高等学校協会 商業経済検定	1級	12
	2級	21
全国商業高等学校協会 財務諸表分析検定	財務諸表分析	3
	管理会計	1
	財務会計	1
実務技能検定協会 秘書検定	2級	2
経済産業省 ITパスポート試験		5
日本情報処理検定協会 情報処理技能検定	表計算 準2級	1
日本英語技能検定協会 実用英語技能検定	2級	1
	準2級	5
合 計		372

学 科 別		普通科	
卒 業 生 徒 数		113 人	
主 催 団 体・検 定 名	取 得 級	取 得 人 数	
全国商業高等学校協会	ビジネス文書実務検定	2 級	2
		2 級 (速度)	3
		3 級 (速度)	3
全国商業高等学校協会	簿記実務検定	3 級	2
日本英語技能検定協会	実用英語技能検定	準 1 級	1
		2 級	30
		準 2 級	61
合 計		102	

生徒の状況（全日制）

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 (令和7年7月31日現在) (単位：人)

市町名	伊東市	熱海市	東伊豆町	河津町	その他	合計
生徒数	520	56	46	14	14	650
構成比%	80.0	8.6	7.0	2.2	2.2	100%

(2) 通学方法 (令和7年7月31日現在) (単位：人)

区分	バス	電車	徒歩	電車・バス	自家用車送迎	合計
生徒数	159	180	164	45	102	650
構成比%	24.5	27.7	25.2	6.9	15.7	100%

2 部（クラブ）の加入状況

(令和7年7月31日現在) (単位：人)

区分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		13	8		21
男子	1年	74	25	0	99
	2年	79	19	12	110
	3年	51	27	18	96
	計(A)	204	71	30	305
	構成比	66.9%	23.3%	9.8%	100%
女子	1年	49	55	0	104
	2年	46	58	26	130
	3年	33	48	30	111
	計(B)	128	161	56	345
	構成比	37.1%	46.7%	16.2%	100%
(A+B)		332	232	86	650
合計	構成比	51.1%	35.7%	13.2%	100%

生徒の状況（定時制）

1 生徒の出身地域及び通学方法

(1) 出身地 （令和7年7月31日現在）（単位：人）

市町名	伊東市	東伊豆町	熱海市	その他	合計
生徒数	37	2	1	1	41
構成比%	90.3	4.9	2.4	2.4	100%

(2) 通学方法 （令和7年7月31日現在）（単位：人）

区分	徒歩	バス	電車	電車・バス	原付	自家用車送迎	合計
生徒数	12	7	7	2	2	11	41
構成比%	29.2	17.1	17.1	4.9	4.9	26.8	100%

(3) 生徒の年齢 （令和7年4月1日現在）（単位：人）

区分	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	21歳	22歳	23歳	24歳	25歳超	計
1年	11											11
2年		8										8
3年			14									14
4年				7	1							8
計	11	8	14	7	1							41

(4) 生徒の就業状況 （令和7年7月31日現在）（単位：人）

区分	建設	製造	卸小売	サービス業	各種学校	その他	無職	計
1年			2	2			7	11
2年				3			5	8
3年	1			7			6	14
4年				6			2	8
計	1		2	18			20	41

2 部(クラブ)の加入状況

(令和7年7月31現在)(単位：人)

区 分		運動部	文化部	未加入者	計
部(クラブ)数		2	3		5
男子	1 年	2	2	4	8
	2 年	2	0	1	3
	3 年	5	1	4	10
	4 年	1	0	5	6
	計 (A)	10	3	14	27
	構成比	37.0	11.1	51.9	100%
女子	1 年	0	2	1	3
	2 年	0	0	5	5
	3 年	0	1	3	4
	4 年	0	0	2	2
	計 (B)	0	3	11	14
	構成比	0	21.4	78.6	100%
合計	(A + B)	10	6	25	41
	構成比	24.4	14.6	61.0	100%

授業料収納状況調

(全日制)

(令和6年度)

期 別	月	調 定 の 状 況								収 納 の 状 況				異 動 者 等 の 状 況
		1年		2年		3年		計		納期内収納額		納期後	収入	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率	収納額	未済額	
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 1,722,600 円 (58 人 × 9,900 円 × 3 月) B. 収納権利増減(▲)額 = ▲19,800 円 (内訳) 5月24日:2年:就学支援金認定▲1 ▲1 人 × 9,900 円 × 2 月 = ▲19,800円 C. 収納必要額 A(±)B = 1,702,800 円
	5													
	6													
	7	17	504,900	28	811,800	13	386,100	58	1,702,800	1,673,100	98.3	0	29,700	
	8											29,700	0	
	計	17	504,900	28	811,800	13	386,100	58	1,702,800	1,673,100	98.3	29,700	0	
二 期	7													A. 期首収納権利発生額 = 3,267,000 円 (66 人 × 9,900 円 × 5 月) B. 収納権利増減(▲)額 = ▲247,500 円 (内訳) 10月28日:1年:就学支援金認定▲2 2年:就学支援金認定▲1 3年:就学支援金認定▲1 ▲4 人 × 9,900 円 × 5 月 = ▲198,000円 11月7日:2年:就学支援金認定▲1 ▲1 人 × 9,900 円 × 5 月 = ▲49,500円 C. 収納必要額 A(±)B = 3,019,500 円
	8													
	9													
	10	21	1,039,500	27	1,336,500	18	891,000	66	3,267,000	3,168,000	97.0	0	99,000	
	11	▲2	▲99,000	▲2	▲99,000	▲1	▲49,500	▲5	▲247,500	▲247,500	100.0	99,000	0	
	計	19	940,500	25	1,237,500	17	841,500	61	3,019,500	2,920,500	96.7	99,000	0	
三 期	12													A. 期首収納権利発生額 = 2,415,600 円 (61 人 × 9,900 円 × 4 月) B. 収納権利増減(▲)額 = 0 円 (内訳) C. 収納必要額 A(±)B = 2,415,600 円
	1	19	752,400	25	990,000	17	673,200	61	2,415,600	2,296,800	95.1	0	118,800	
	2											118,800	0	
	3													
	計	19	752,400	25	990,000	17	673,200	61	2,415,600	2,296,800	95.1	118,800	0	
合計		55	2,197,800	78	3,039,300	47	1,900,800	180	7,137,900	6,890,400	96.5	247,500	0	D. 収納必要額 = 7,137,900 円

授業料 収 納 状 況 調

(定時制)

(令和6年度)

期 月 別	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況				異 動 者 等 の 状 況	
	1年		2年		3年		4年		計		納期内収納額		納期後	収入		
	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	円	%	円	円		
一 期	4														A. 期首収納権利発生額 = 24,300 円 (3 人 × 2,700 円 × 3 月) B. 収納権利増減(▲)額 = ▲ 8,100 円 (内訳) 9月24日:1年:就学支援金認定▲1 ▲ 1 人 × 2,700 円 × 3 月 = ▲ 8,100円 C. 収納必要額 A(±)B = 16,200 円	
	5															
	6															
	7	1	8,100	1	8,100	1	8,100			3	24,300	24,300	100.0	0		0
	10	▲ 1	▲ 8,100							▲ 1	▲ 8,100	▲ 8,100	100.0	0		0
	計	0	0	1	8,100	1	8,100	0	0	2	16,200	16,200	100.0	0		0
二 期	7														A. 期首収納権利発生額 = 54,000 円 (4 人 × 2,700 円 × 5 月) B. 収納権利増減(▲)額 = ▲ 27,000 円 (内訳) 10月28日:2年:就学支援金認定▲1 ▲ 1 人 × 2,700 円 × 5 月 = ▲ 13,500円 12月18日:1年:就学支援金認定▲1 ▲ 1 人 × 2,700 円 × 5 月 = ▲ 13,500円 C. 収納必要額 A(±)B = 27,000 円	
	8															
	9															
	10	1	13,500	2	27,000	1	13,500			4	54,000	54,000	100.0	0		0
	11			▲ 1	▲ 13,500					▲ 1	▲ 13,500	▲ 13,500	100.0	0		0
	1	▲ 1	▲ 13,500							▲ 1	▲ 13,500	▲ 13,500	100.0	0		0
計	0	0	1	13,500	1	13,500			2	27,000	27,000	100.0	0	0		
三 期	12														A. 期首収納権利発生額 = 21,600 円 (2 人 × 2,700 円 × 4 月) B. 収納権利増減(▲)額 = 5,400 円 (内訳) 1月31日:4年:就学支援金受給期間満了 1 1 人 × 2,700 円 × 2 月 = 5,400円 C. 収納必要額 A(±)B = 27,000 円	
	1			1	10,800	1	10,800			2	21,600	21,600	100.0	0		0
	2							1	5,400	1	5,400	5,400	100.0	0		0
	3															
	計	0	0	1	10,800	1	10,800	1	5,400	3	27,000	27,000	100.0	0		0
合計	0	0	3	32,400	3	32,400	1	5,400	7	70,200	70,200	100.0	0	0	D. 収納必要額 = 70,200 円	

授業料収納状況調

(全日制)

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

期 別	月 別	調 定 の 状 況								収 納 の 状 況				異 動 者 等 の 状 況
		1年		2年		3年		計		納期内収納額		納期後	収入	
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率	収納額	未済額	
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 0円 (人 × 9,900円 × 3月) B. 収納権利増減(▲)額 = 円 (内訳) C. 収納必要額 A(±)B = 0円
	5													
	6													
	7													
	計	0	0	0	0	0	0	0	0					
二 期	7													A. 期首収納権利発生額 = 円 (人 × 9,900円 × 5月) B. 収納権利増減(▲)額 = 円 (内訳) C. 収納必要額 A(±)B = 円
	8													
	9													
	10													
	11													
	計													
三 期	12													A. 期首収納権利発生額 = 円 (人 × 9,900円 × 4月) B. 収納権利増減(▲)額 = 円 (内訳) C. 収納必要額 A(±)B = 円
	1													
	2													
	3													
	計													
合計														D. 収納必要額 = 0円

授業料 収 納 状 況 調

(定時制)

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

期 別	月 別	調 定 の 状 況										収 納 の 状 況			異 動 者 等 の 状 況	
		1年		2年		3年		4年		計		納期内収納額	納期後	収入		
		人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額	人員	調定額		収納率	収納額		未済額
一 期	4	人	円	人	円	人	円	人	円	人	円	円	%	円	円	A. 期首収納権利発生額 = 8,100 円 (1 人 × 2,700 円 × 3 月) B. 収納権利増減(▲)額 = 0 円 (内訳) C. 収納必要額 A(±)B = 8,100 円
	5															
	6															
	7							1	8,100	1	8,100	8,100	####	0	0	
	計	0	0	0	0	0	0	1	8,100	1	8,100	8,100	100.0	0	0	
二 期	7															A. 期首収納権利発生額 = 円 (人 × 2,700 円 × 5 月) B. 収納権利増減(▲)額 = 円 (内訳) C. 収納必要額 A(±)B = 円
	8															
	9															
	10															
	11															
	計															
三 期	12															A. 期首収納権利発生額 = 円 (人 × 2,700 円 × 4 月) B. 収納権利増減(▲)額 = 円 (内訳) C. 収納必要額 A(±)B = 円
	1															
	2															
	3															
	計															
合計	0	0	0	0	0	0	1	8,100	1	8,100	8,100	100.0	0	0	D. 収納必要額 = 8,100 円	

県収入証紙により徴収した使用料及び手数料調

区 分	令和6年度	令和7年度 (令和7年7月31日現在)
	件 数	件 数
全日制高等学校入学検定料	202件	0件
定時制高等学校入学検定料	12件	0件
合 計	214件	0件

保 管 現 金 有 高 調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

現 金 保 管 者	区 分	金 額 (円)
静岡県立伊豆伊東高等学校 校長	駐車場及び有料道路利用料 継続的資金前渡	9,300

預 金 調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高 (円)	摘 要
三島信用金庫 伊東営業部	無利息型 普通預金	1250160	静岡県立伊豆伊東高等学校 資金前渡者 校長 池田 将章	0	給与等振替口座
三島信用金庫 伊東営業部	無利息型 普通預金	1250152	静岡県立伊豆伊東高等学校 資金前渡者 校長 池田 将章	0	公共料金等振替口座
残 高 合 計				0	

郵 券 等 受 払 調

(令和7年7月31日現在)
(単位：枚、円)

区分	種類	令和6年度						令和7年度						摘要			
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出			差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額		枚数	金額	
郵券	84円券	3	252	0	0	3	252	0	0	0	0	0	0	0	0	0	郵送用
	94円券	24	2,256	0	0	2	188	22	2,068	0	0	5	470	17	1,598	0	郵送用
	100円券	1	100	0	0	0	0	1	100	0	0	1	100	0	0	0	郵送用
	120円券	9	1,080	0	0	1	120	8	960	0	0	3	360	5	600	0	郵送用
	290円券	3	870	0	0	0	0	3	870	0	0	0	0	3	870	0	郵送用
	レターバックライト	4	1,480	0	0	0	0	4	1,480	0	0	0	0	4	1,480	0	郵送用
計			6,038		0		560		5,478		0		930		4,548		
有料道路回数券等	伊豆中央道路・修善寺道路共通(普通車)	14		0		9		5		0		0		5			公務用
	伊豆中央道路・修善寺道路共通(軽自動車等)	52		0		1		51		0		0		51			公務用
計		66		0		10		56		0		0		56			

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)		
					5年度	6年度	左のうち、5年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		7,900,294	
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		5,366,900	
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		220,000	
計					7,279,694	13,487,194	0
(14) 工事 請負費	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費		2,200,000	
計					0	2,200,000	0
(16) 公有財産 購入費						0	
計					0	0	0
(17) 備品 購入費	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		582,000	
	一般会計	教育費	学校教育費	高校教育費		1,200,000	
計					14,098,700	1,782,000	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		70,566,772	
計					67,178,058	70,566,772	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費		1,236	
計					0	1,236	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

(令和7年7月31日現在)

節名	会計	款	項	目	執行済額 (円)	
						うち、6年度からの繰越額分
(12) 委託料	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	247,500	0
	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	1,064,800	0
	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	69,300	0
計					1,381,600	0
(14) 工事 請負費					0	0
計					0	0
(16) 公有財産 購入費					0	0
計					0	0
(17) 備品 購入費					0	0
計					0	0
(18) 負担金、 補助及 び交付金	一般会計	教育費	高等学校費	高等学校管理費	17,674,100	0
計					17,674,100	0
(21) 補償、補填 及び賠償 金					0	0
計					0	0

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 静岡県立伊東高等学校外6校施設機械警備業務委託	東海総合警備保障㈱	円 16,988,730	円 4,148,760	円 1,075,274	円 5,224,034	一般	自 R1.10.1 ～ 至 R6.9.30	R6.05.31 R6.06.28 R6.07.31 R6.08.30 R6.09.30 R6.10.31 小計	(4,386,620) 139,567 139,567 139,567 139,567 139,567 139,579 837,414	校舎の機械警備	令和1長期伊豆伊東高校開校及び東部特支伊豆高原分校移転による費用増 ・伊豆伊東高校 ・熱海高校 ・東部特支伊豆高原分校
2	静岡県立伊豆伊東高等学校外3校機械警備業務委託	セコム㈱	7,194,000	4,950,000	0	4,950,000	一般	自 R6.10.1 ～ 至 R11.9.30	R6.11.29 R6.12.26 R7.01.31 R7.02.28 R7.03.31 R7.04.30 小計	(0) 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 82,500 495,000	校舎の機械警備	R6長期・伊豆伊東高校 ・熱海高校 ・東部特支伊豆高原分校 ・東部特支伊東分校
3	静岡県立伊豆伊東高等学校建築物環境衛生管理業務委託	ロフティ㈱	2,987,050	2,750,000	0	2,750,000	一般	自 R6.4.1 ～ 至 R7.3.31	R6.07.31 R6.10.31 R7.01.31 R7.04.30 小計	553,300 963,600 698,500 534,600 2,750,000	建築物の環境及び衛生管理	
4	静岡県立伊豆伊東高等学校外1校消防用設備等保守点検業務委託	㈱藤興産	1,833,480	1,529,000	0	1,529,000	一般	自 R6.4.1 ～ 至 R7.3.31	R6.11.22 R7.04.30 小計	1,062,743 466,257 1,529,000	消防・防火用設備等の点検等	・伊豆伊東高校 ・熱海高校
5	静岡県立伊豆伊東高等学校エレベーター保守点検業務委託	東芝エレベーター㈱静岡支店	1,020,388	745,800	0	745,800	随契	自 R6.4.1 ～ 至 R7.3.31	R6.05.31 R6.06.28 R6.07.31 R6.08.30 R6.09.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.01.31 R7.02.28 R7.03.31 R7.04.30 小計	62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 62,150 745,800	エレベーター保守点検	随契1号(少額)
6	静岡県立伊豆伊東高等学校自家用電気工作物保安管理業務委託	渡邊電気管理事務所	726,000	633,600	0	633,600	随契	自 R6.4.1 ～ 至 R7.3.31	R6.05.31 R6.06.28 R6.07.31 R6.08.30 R6.09.30 R6.09.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.01.31 R7.02.28 R7.03.31 R7.04.30 小計	36,300 36,300 36,300 36,300 198,000 36,300 36,300 36,300 36,300 36,300 36,300 36,300 633,600	自家用電気工作物の保安及び点検業務	随契1号(少額)

委 託 料 に 関 す る 調

(令和6年度)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
7	静岡県立伊豆伊東高等学校外2校可燃物収集運搬業務委託	㈱フジタ	440,000	440,000	0	440,000	随契	自 R6.4.1 ～ 至 R7.3.31	R6.05.31 R6.06.28 R6.07.31 R6.08.30 R6.09.30 R6.10.31 R6.11.29 R6.12.26 R7.01.31 R7.02.28 R7.03.31 R7.04.30 小計	39,600 35,200 35,200 39,600 39,600 35,200 39,600 39,600 35,200 39,600 35,200 30,800 35,200 440,000	可燃物の収集及び運搬	随契1号(少額) ・伊豆伊東高校 ・東部特支伊豆高原分校 ・東部特支伊東分校
8	井水滅菌装置保守業務委託	アートウォーター	95,700	95,700	0	95,700	随契	自 R6.4.1 ～ 至 R7.3.31	R7.04.30	95,700	井水滅菌機の点検等	随契1号(少額)
9	静岡県立伊豆伊東高等学校外1校プール浄化装置保守点検業務委託	アートウォーター	97,900	97,900	0	97,900	随契	自 R6.4.15 ～ 至 R6.11.29	R6.12.02	97,900	プール浄化装置の点検等	随契1号(少額) ・伊豆伊東高校 ・熱海高校
10	産業廃棄物収集・運搬及び処分委託	㈱フジタ	99,000	99,000	0	99,000	随契	自 R6.4.24 ～ 至 R6.8.30	R6.07.31	99,000	産業廃棄物の収集運搬及び処分	随契1号(少額) 単価契約
11	下田熱海地区県立学校建築基準法第12条に基づく定期点検業務委託	㈱コーセイ産業	2,721,400	2,023,780	0	2,023,780	一般	自 R6.7.18 ～ 至 R6.10.31	R6.11.29	2,023,780	建築基準法第12条に基づく定期点検	・下田高校 ・下田高校南伊豆分校 ・松崎高校 ・稲取高校 ・伊豆伊東高校 ・熱海高校
	事務関係計	11件	34,203,648	17,513,540	1,075,274	18,588,814				9,747,194		
1	静岡県立伊豆伊東高等学校教職員住宅用地測量業務委託	RBコンサルタント㈱	4,059,000	3,740,000	0	3,740,000	一般	自 R6.9.17 ～ 至 R7.3.14	R7.04.21	3,740,000	教職員住宅用地の測量	
	工事関係計	1件	4,059,000	3,740,000	0	3,740,000				3,740,000		
	合計	12件	38,262,648	21,253,540	1,075,274	22,328,814				13,487,194		

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
1	(事務関係) 静岡県立伊豆伊東高等学校外3校機械警備業務委託	セコム(株)	円 7,194,000	円 4,950,000	円 0	円 4,950,000	一般	自 R6.10.1 ～ 至 R11.9.30	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31	円 (4,950,000) 82,500 82,500 82,500	校舎の機械警備	R6長期 ・伊豆伊東高校 ・熱海高校 ・東部特支伊豆高原分校 ・東部特支伊東分校
2	静岡県立伊豆伊東高等学校建築物環境衛生管理業務委託	ロフティ(株)	2,870,340	2,750,000	0	2,750,000	随契(不調)	自 R7.4.1 ～ 至 R8.3.31	R7.7.31	779,350	建築物の環境及び衛生管理	
3	静岡県立伊豆伊東高等学校外2校消防用設備等保守点検業務委託	(株)藤興産	2,686,112	1,681,020	0	1,681,020	一般	自 R7.4.1 ～ 至 R8.3.31			消防・防火用設備等の点検等	・伊豆伊東高校 ・熱海高校 ・東部特支伊東分校
4	静岡県立伊豆伊東高等学校エレベーター保守点検業務委託	東芝エレベーター(株)静岡支店	745,800	745,800	0	745,800	随契	自 R7.4.1 ～ 至 R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31	62,150 62,150 62,150	エレベーター保守点検	随契1号(少額)
5	静岡県立伊豆伊東高等学校外1校自家用電気工作物保安管理業務	渡邊電気管理事務所	1,261,920	1,003,200	0	1,003,200	随契	自 R7.4.1 ～ 至 R8.3.31	R7.5.30 R7.6.30 R7.7.31	56,100 56,100 56,100	自家用電気工作物の保安及び点検業務	随契2号 ・伊豆伊東高校 ・東部特支伊東分校
6	井水滅菌装置保守業務委託	アートウォーター	95,700	95,700	0	95,700	随契	自 R7.4.1 ～ 至 R8.3.31			井水滅菌機の点検等	随契1号(少額)
7	静岡県立伊豆伊東高等学校外1校ブルー浄化装置保守点検業務委託	アートウォーター	97,900	97,900	0	97,900	随契	自 R7.4.4 ～ 至 R7.11.28			ブルー浄化装置の点検等	随契1号(少額) ・伊豆伊東高校 ・熱海高校

委 託 料 に 関 す る 調

(令和7年度)
(令和7年7月31日現在)

整理 番号	委 託 業務名	受託者	当 初 設計金額	契約金額			契約 締結 方法	契約期間	支 出 年月日	金 額	委託業務 の内容	摘 要
				当初額	変更 増減額	計						
8	産業廃棄物収集・運搬及び処分委託	㈱フジタ	99,000	収集運搬単価 混合廃棄物 11,000/回 (8㎡) 処分単価 混合廃棄物 88,000/回	0	99,000	随契	自 R7.5.21 ～ 至 R7.8.29			産業廃棄物の収集運搬及び処分	随契1号 (少額) 単価契約
9	産業廃棄物(廃薬品)の収集・運搬及び処分業務	ジャパンウエイスト(株)	96,580	96,580	0	96,580	随契	自 R7.7.1 ～ 至 R8.3.26			廃薬品の収集運搬及び処分	随契1号 (少額)
	事務関係計	9件	15,147,352	11,420,200	0	11,519,200				1,381,600		
	合計	9件	15,147,352	11,420,200	0	11,519,200				1,381,600		

補助金支出調

(令和6年度)

整理番号	対象事業名	交付先	補助の根拠	事業の実績	総事業費	補助金額	補助率	交付決定		交付		事業完了		摘要	
								年月日	金額	年月日	金額	年月日	確認年月日		
1	高等学校 定時制の 課程及び 通信制の 課程修学 補助金	定時制生 徒2人	高等学校 定時制の 課程及び 通信制の 課程修学 補助金交 付要綱	高等学校 定時制の 課程及び 通信制の 課程修学 補助金	円 11,372	円 11,372	100		円 11,372		円 11,372		円 11,372		
計		1件	/	/	11,372	11,372	/	/	11,372	/	11,372	/	/		

令和7年度(令和7年7月31日現在) 実績なし

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	第76回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催要項による	令和6年度 第76回総会・研究協議会	円 4,000	R6. 5. 10
2	東海四県高等学校長連絡協議会参加費	東海四県高等学校長連絡協議会	開催要項による	令和6年度 総会・研究協議会	2,000	R6. 7. 5
3	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第1期分 589名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	17,483,400	振替日 R6. 7. 31
4	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料（第1期分 40名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	324,000	振替日 R6. 7. 31
5	第57回東海支部総会・研究協議会参加費	全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会	開催要項による	令和6年度 第57回東海支部総会・研究協議会	2,000	R6. 8. 13
6	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第2期分 580名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	28,630,800	振替日 R6. 10. 31
7	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料（第2期分 39名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	518,400	振替日 R6. 10. 31
8	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料（第2期分 2名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校から離籍する生徒の授業料を戻す	▲ 5,400	振替日 R6. 11. 22
9	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料（第1期分 1名分, 第2期分 1名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	21,600	振替日 R6. 11. 22
10	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第2期分 5名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	247,500	振替日 R6. 11. 22
11	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第2期分 1名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	9,900	振替日 R6. 11. 22
12	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料（第2期分 1名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	13,500	振替日 R7. 1. 14

負担金支出調

(令和6年度)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
13	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第3期分 581名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	円 22,918,500	振替日 R7.1.31
14	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料（第3期分 38名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	410,400	振替日 R7.1.31
15	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料（第3期分 1名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校から離籍する生徒の授業料を戻す	▲ 5,400	振替日 R7.2.14
16	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料（第3期分 1名分）	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校から離籍する生徒の授業料を戻す	▲ 19,800	振替日 R7.2.18
計		16件	/	/	70,555,400	/

負担金支出調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

整理番号	負担金名	交付先	負担根拠	事業内容	負担金額	支出年月日
1	第77回総会・研究協議会参加費	全国高等学校長協会	開催要項による	令和7年度 第77回総会・研究協議会	円 4,000	R7.4.30
2	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会参加費	東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	開催要項による	令和7年度 東海四県高等学校長生徒指導連絡協議会	4,000	R7.6.24
3	高等学校等就学支援金	全日制高等学校授業料(第1期分 584名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	17,344,800	振替日 R7.7.31
4	高等学校等就学支援金	定時制高等学校授業料(第1期分 40名分)	高等学校等就学支援金の支給に関する法律	高等学校に在籍する生徒の授業料に充てる	321,300	振替日 R7.7.31
計		4件	/	/	17,674,100	/

建 築 工

整理 番号	予 算 科 目	工 事 名	工 事 箇 所	当 初 設計金額	契 約 金 額		
					当 初 額	変更増減額	計
1	教育管理費	令和6年度 静岡県立 伊豆伊東高等学校テニス コートフェンス更新 工事	伊東市大原 地内	円 2,321,000	円 2,200,000	円 0	円 2,200,000
		合 計	1 件	2,321,000	2,200,000	0	2,200,000

令和7年度 該当なし

事 調

(令和6年度)

契約締結方法	受注者	着手完成(予定)年月日	支出済額	工事概要	公有財産台帳	摘要
随契	株斉藤組	R 6. 7. 22 R 6. 10. 21	円 2,200,000	テニスコートフェンス更新工事	—	令達年月日 R 6. 6. 18 最終支払年月日 R 6. 11. 29 随契1号(少額)
			2,200,000			

公 有 財 産 調

(令和6年度)

区 分	令和6年3月31日現在		増		減		令和7年3月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 6,076,432	/	千円 4,844	/	千円 150,931	/	千円 5,930,345	
土 地	m ² 46,658.90	2,992,112					m ² 46,658.90	2,992,112	
立木竹	本 89	3,657					本 89	3,657	
建 物	m ² 5,150.52 15,401.77	2,961,933	30.8 30.8	2,130	181.54 273.21	142,871	m ² 4,999.78 15,159.36	2,821,192	
工作物	個 47	118,730	2	2,714		8,060	個 49	113,384	
普通財産	/	402,031	/		/	11,418	/	390,613	
土 地	m ² 7,983.93	292,903					m ² 7,983.93	292,903	
建 物	m ² 1,065.92 2,455.18	109,128				11,418	m ² 1,065.92 2,455.18	97,710	
工作物	個 19						個 19		
公有財産に 準ずるもの	/	709	/		/		/	709	
電話加入権	件 19	709					件 19	709	

公 有 財 産 調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

区 分	令和7年3月31日現在		増		減		令和7年7月31日現在		摘 要
	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	数量又は面積	台帳価格	
行政財産	/	千円 5,930,345	/	千円	/	千円	/	千円 5,930,345	
土 地	m ² 46,658.90	2,992,112					m ² 46,658.90	2,992,112	
立木竹	本 89	3,657					本 89	3,657	
建 物	m ² 4,999.78 15,159.36	2,821,192					m ² 4,999.78 15,159.36	2,821,192	
工作物	個 49	113,384	1				個 50	113,384	
普通財産	/	390,613	/		/		/	390,613	
土 地	m ² 7,983.93	292,903					m ² 7,983.93	292,903	
建 物	m ² 1,065.92 2,455.18	97,710					m ² 1,065.92 2,455.18	97,710	
工作物	個 19						個 19		
公有財産に 準ずるもの	/	709	/		/		/	709	
電話加入権	件 19	709					件 19	709	

借 地 借 家 等 調

(令和7年7月31日現在)

整 理 号	区 分	種 別	所在地	地 目		数量又 は面積	借 料		契約 期間	所有者又 は契約者 氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土 地	敷 地	伊東市吉 田字一本 松750-2			0.52m ²	円 0	円 0	R4.4.1 ～ R9.3.31	伊東市長	排水設備 設置
	計						0	0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

(令和7年度)

(令和7年7月31日現在)

区分	事業名又は契約名	内容	契約額	(契約額の年度別内訳)						
				6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	
長期継続契約	静岡県立伊東高等学校外6校施設機械警備業務委託契約	機械警備業務 (契約日)R1.9.9	円 5,224,034	円 837,414						
	電子複写機賃貸借契約	電子複写機賃貸借 (契約日)R2.4.1	421,202	84,242						
	電子複写機賃貸借契約	全定職員室 複写機の賃借 (契約日)R2.4.1	855,180	168,036						
	電子複写機賃貸借契約	複写機の賃借 (契約日)R6.4.1	344,916	68,984	68,983	68,983	68,983	68,983	68,983	
	印刷機賃貸借契約	カラー印刷機の賃借 (契約日)R6.4.1	3,300,000	660,000	660,000	660,000	660,000	660,000	660,000	
	静岡県立伊豆伊東高等学校外3校機械警備業務委託契約	機械警備業務 (契約日)R6.9.17	4,950,000	495,000	990,000	990,000	990,000	990,000	990,000	495,000

行政財産貸付・使用許可調

(令和7年7月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地 目		数量又 は面積	貸付料又は 使 用 料		貸付又は 使用許可 期 間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・使用許可 目 的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	18本	1,500	27,000	自 7. 4. 1 至 10. 3. 31	西日本電信電話 (株)静岡支店長	本柱8本 支線柱1本 支柱2本 支線7条
2	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	16本	1,500	24,000	自 3. 4. 1 至 8. 3. 31	東京電力パワーグリ ッド(株)伊豆支社長	本柱2本 支柱2本 支線12条
3	建物	事務 所建	伊東市吉田 748-1	建物	事務 所建	m ² 1.00	免除	免除	自 6. 4. 1 至 11. 3. 31	伊東市長	携帯型災害デジ タル無線設備
4	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 20.96	免除	免除	自 7. 4. 1 至 12. 3. 31	伊東市長	防災倉庫設置
5	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 2.00	免除	免除	自 7. 4. 1 至 12. 3. 31	伊東市長	同報無線屋外広報塔・広 域避難場所標識
6	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 7.04	免除	免除	自 7. 4. 1 至 8. 3. 31	伊東市長	道路敷
7	土地	敷地	伊東市大原 3-13	学校 敷地	学校 敷地	m ² 9.90	免除	免除	自 7. 4. 1 至 10. 3. 31	伊東高等学校 後援会長	テニスコート倉 庫
8	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 9.84	免除	免除	自 7. 4. 1 至 10. 3. 31	伊東高等学校 後援会長	記念碑
9	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 24.00	免除	免除	自 7. 4. 1 至 10. 3. 31	伊豆伊東高校 PTA会長	PTA職員執務場所 及び通勤車両駐 車場
	建物	事務 所建		建物	事務 所建	m ² 6.60					
10	建物	事務 所建	伊東市吉田 748-1	建物	事務 所建	m ² 65.70	免除	免除	自 7. 4. 1 至 10. 3. 31	伊豆伊東高校 PTA会長	購買設置
11	建物	事務 所建	伊東市吉田 748-1	建物	事務 所建	m ² 1,636.036	免除	免除	自 6. 4. 1 至 9. 3. 31	東部特別支援 学校校長	東部特別支援学校伊豆高 原分校の教室等(使用承 認)
12	建物	倉庫 建	伊東市吉田 748-1	建物	倉庫 建	m ² 30.80	免除	免除	自 6. 4. 1 至 9. 3. 31	東部特別支援 学校校長	東部特別支援学校伊豆高 原分校の倉庫(使用承 認)
13	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 60.00	200	200	自 7. 5. 31 至 7. 5. 31	伊豆伊東高校 PTA会長	キッチンカー2 台
14	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 937.00	14,580	14,580	7. 7. 19	(株)ダブ	映画撮影
	建物	事務 所建		建物	事務 所建	m ² 498.15					
15	土地	敷地	伊東市吉田 748-1	学校 敷地	学校 敷地	m ² 4.00	2,278,666	2,278,666	自 7. 4. 1 至 10. 3. 31	サントリービバ レッジソリュー ション(株)	貸付 自動販売機設置
	建物	事務 所建		建物	事務 所建	m ² 4.00					
合 計								4,850,979			

普通財産・借受財産等貸付調

(令和7年7月31日現在)

整理 番号	区分	種別	所在地	地目		数量又 は面積	貸付料又は 使用料		貸付又は 使用許可 期間	貸付又は使用 許可を受けた 者の氏名	貸付・ 使用許 可目的
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	宅地	伊東市川奈 1183-24	公舎 敷地	公舎 敷地	3本	1,500	円 4,500	自 5. 4. 1 至10. 3. 31	東京電力パ ワーグリッド (株)伊豆支社 長	電柱1本 支線2条
2	土地	宅地	伊東市宇佐 美1134-1	公舎 敷地	公舎 敷地	1本	1,500	1,500	自 5. 4. 1 至10. 3. 31	東京電力パ ワーグリッド (株)伊豆支社 長	電柱1本
3	土地	宅地	伊東市玖須 美元和田716 -548	公舎 敷地	公舎 敷地	2本	1,500	3,000	自 5. 4. 1 至10. 3. 31	NTTドコモ (株)東海支社 長	電柱2本
4	土地	宅地	伊東市玖須 美元和田 716-193	公舎 敷地	公舎 敷地	2本	1,500	3,000	自 7. 4. 1 至10. 3. 31	東京電力パ ワーグリッド (株)伊豆支社 長	本柱1本 支線1条
5	土地	宅地	伊東市玖須 美元和田 727-51	公舎 敷地	公舎 敷地	2本	1,500	3,000	自 7. 4. 1 至10. 3. 31	東京電力パ ワーグリッド (株)伊豆支社 長	小柱1本 小柱支線1条
6	土地	宅地	伊東市富戸 952-4	公舎 敷地	公舎 敷地	1本	1,500	1,500	自 6. 4. 1 至11. 3. 31	東京電力パ ワーグリッド (株)伊豆支社 長	支線1条
合計								16,500			

職員公舎管理状況調

(令和7年7月31日現在)

整理番号	所在地	建築年 月	構造	管理 戸(室)数 (A)	入居 戸(室)数 (B)	Bの内他事務 所職員入居 戸(室)数	空屋 戸(室)数 (A - B)	摘要
1	伊東市玖須 美元和田 716-548	S57. 3	非木造 3階建	12	8	0	4	県有 H26. 4. 1 1戸 H26. 8. 1 1戸 H29. 7. 1 1戸 R 1. 7.28 1戸
2	伊東市宇佐 美1134-1	H 5. 5	非木造 3階建	12	4	2	8	県有 12戸中4戸は警察 用 熱海高1 警察1 H30. 4. 1 2戸 H31. 4. 1 1戸 R 5. 4. 1 2戸 R 6. 5. 1 1戸 R 7. 4. 1 1戸 R 7. 7.14 1戸
3	伊東市玖須 美元和田 716-193	H 7. 3	木造 平屋建	1	0	0	1	県有 校長用 H30. 4. 1 1戸
4	伊東市玖須 美元和田 727-51	S42. 2	RC造 2戸建 2棟	4	0	0	4	県有 H31. 3. 1 1戸 R 2. 4. 1 1戸 R 3. 8. 1 1戸 R 5. 8.26 1戸
5		S48. 1	RC造 4戸建 1棟	4	0	0	4	県有 H28. 5. 1 1戸 R 4. 4. 1 2戸 R 6. 8. 1 1戸
6	伊東市富戸 908-151	S61. 5	非木造 3階建	12	0	0	12	県有 H28. 1. 1 1戸 H29. 4. 1 1戸 H30. 4. 1 1戸 R 2. 4. 1 1戸 R 2. 7. 1 1戸 R 3. 4. 1 2戸 R 3. 5. 1 1戸 R 5. 4. 1 4戸
	計			45	12	2	33	

主 要 備 品 調

(令和7年7月31日現在)

整理 番号	区 分		品 名 ・ 規 格	利 用 状 況	購入 年月	購入金額
	大・中	小				
1	02-01	パーソナルコンピュータ（一式）	プレゼンテーション実習装置 FUJITSU外	授業時(年間140日) 商業科総合実践授業で使用	R3.12	円 18,480,000
2	02-01	パーソナルコンピュータ（一式）	パーソナルコンピュータ一式 情報基礎実習装置	授業時(年間140日) 商業科授業で使用	R6.3	12,980,000
3	10-02	その他の 語学用器具	LL装置一式 教師用、生徒用モニター	不使用 旧伊東高校城ヶ崎分校残置	H10.3	5,733,000
4	02-01	パーソナルコンピュータ（一式）	ICT環境整備機器一式	授業時(年間140日) 商業科授業で使用	H29.12	5,133,780
5	03-03	プロジェクター	プロジェクター 10台	授業時(年間200日) 生徒授業用で使用	R3.3	2,337,500
6	10-06	被服用器具	実習用テーブル 被服台 7台	不使用 旧伊東高校残置	H20.3	1,984,500
7	10-07	鍵盤楽器	グランドピアノ KAWAI RX-5	授業時(年間140日) 授業及び部活で使用	H21.12	1,575,000
8	10-06	教育調理器具	電動昇降式調理台	不使用 旧伊東高校城ヶ崎分校残置	H15.3	1,522,500
9	10-06	教育調理器具	電動昇降式調理台	不使用 旧伊東高校城ヶ崎分校残置	H15.3	1,522,500
10	01-99	その他の庁用器具	校旗	行事・式典時(年間10日) 行事・式典で使用	R5.3	1,430,000
11	01-99	その他の庁用器具	暗幕 18箇所	授業及び部活動(年間200日) 常時使用	R5.3	1,398,100
12	01-99	その他の庁用器具	暗幕 18箇所	授業及び部活動(年間200日) 常時使用	R5.3	1,346,400
13	01-04	移動書庫	移動書庫 ITO BAP-406E	不使用 旧伊東高校城ヶ崎分校残置	H2.3	1,157,720
14	01-04	移動書庫	移動書庫 MF-K862, MF-M672	不使用 旧伊東高校残置	H1.8	1,155,000
15	10-12	トレーニング用器具	レッグカール BA2	毎日 部活動等で使用	H1.12	1,133,000
16	02-02	放送装置	放送装置 音声調整卓外	不使用 旧伊東高校城ヶ崎分校残置	H25.2	997,500
17	01-99	その他の庁用器具	ラットプルダウン ウェイト70kg以上	毎日 部活動等で使用	H14.3	887,050
18	10-12	バスケット用器具	バスケットボード板	不使用 旧伊東高校城ヶ崎分校残置	H7.2	748,000
19	01-99	その他の庁用器具	Rook17快α 17インチ	清掃時(年間6日) 床清掃時に使用	R5.3	723,800
20	02-01	電算組織用媒体	パソコンソフト SKYMENU2019	不使用 CromeBookに切替	R2.1	715,000

職 員 調

全日制

(令和7年7月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	校長	池田 将章	総括	□□□	□年 □月	□□□
2	副校長	小川 友和	総括補佐	□□□	□年 □月	□□□
3	教頭	日吉 淳	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
4	事務長	星谷 朗子	事務総括	□□□	□年 □月	□□□
5	教諭	大木 祐和	英語	□□□	□年 □月	□□□
6	教諭	稲葉 健	国語	□□□	□年 □月	□□□
7	教諭	岡田 治	国語	□□□	□年 □月	□□□
8	教諭	加藤 浩之	数学	□□□	□年 □月	□□□
9	教諭	岩沢 猛	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
10	教諭	宮下 寿来	数学	□□□	□年 □月	□□□
11	教諭	戸塚 雅晴	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
12	教諭	櫻木万美子	英語	□□□	□年 □月	□□□
13	教諭	宮城 幸史	(商業)	□□□	□年 □月	□□□
14	教諭	小林 宏教	(商業)	□□□	□年 □月	□□□
15	教諭	後藤 麻美	国語	□□□	□年 □月	□□□
16	教諭	青木 裕希	英語	□□□	□年 □月	□□□
17	教諭	前田 明久	国語	□□□	□年 □月	□□□
18	教諭	加藤 智也	英語	□□□	□年 □月	□□□
19	教諭	山田 慎弥	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
20	教諭	稲葉 祥子	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
21	教諭	橋本 洸	数学	□□□	□年 □月	□□□
22	教諭	谷上 嘉章	英語	□□□	□年 □月	□□□
23	教諭	海野 秀樹	(商業)	□□□	□年 □月	□□□
24	教諭	尾身 拓哉	理科	□□□	□年 □月	□□□
25	教諭	河野 佑紀	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
26	教諭	原木 彩冬	(商業)	□□□	□年 □月	□□□
27	教諭	三田 未帆	国語	□□□	□年 □月	□□□
28	教諭	鈴木 優理	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
29	教諭	根橋 徹	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
30	教諭	阿部慎之介	数学	□□□	□年 □月	□□□

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
31	教 諭	中山 裕介	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
32	教 諭	三宅 誠学	(商 業)	□□□	□年 □月	□□□
33	教 諭	岸 百合子	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
34	教 諭	若林 衛	理 科	□□□	□年 □月	□□□
35	教 諭	増田 光希	理 科	□□□	□年 □月	□□□
36	教 諭	岡田 拓也	(商 業)	□□□	□年 □月	□□□
37	教 諭	竹田 遼介	国 語	□□□	□年 □月	□□□
38	教 諭	石部 映里	英 語	□□□	□年 □月	□□□
39	教 諭	瀧本 翔太	数 学	□□□	□年 □月	□□□
40	教 諭	小池真大郎	理 科	□□□	□年 □月	□□□
41	教 諭	佐藤 慧治	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
42	教 諭	柏原 峻汰	理 科	□□□	□年 □月	□□□
43	教 諭	藤城 拓貴	国 語	□□□	□年 □月	□□□
44	教 諭	杉山 康人	英 語	□□□	□年 □月	□□□
45	教 諭	成澤 悠衣	(商 業)	□□□	□年 □月	□□□
46	教 諭	高橋 勇哉	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
47	教 諭	大橋 優樹	数 学	□□□	□年 □月	□□□
48	教 諭	法月 己歩	(商 業)	□□□	□年 □月	□□□
49	教 諭	齋藤 竜哉	数 学	□□□	□年 □月	□□□
50	養護教諭	石井 成美	養 護	□□□	□年 □月	□□□
51	養護教諭	鈴木 菜緒	養 護	□□□	□年 □月	□□□
52	実習助手	平井 翔	(商 業)	□□□	□年 □月	□□□
53	実習助手	美間坂美春	理 科	□□□	□年 □月	□□□
54	主 査	飯塚 邦仁	会 計	□□□	□年 □月	□□□
55	主 査	山田 哲史	管 財	□□□	□年 □月	□□□
56	主 事	松原 裕輔	会 計	□□□	□年 □月	□□□
57	主 事	和久田綾乃	会 計	□□□	□年 □月	□□□
平均年数					□年 □月	

(会計年度任用職員等)

整理 番号	職 名	氏 名	事務分担	住 所	勤務年数	摘 要
1	教 諭(臨)	渥美 円	家 庭	□□□	□年 □月	□□□
2	教 諭(臨)	秋山 颯貴	美 術	□□□	□年 □月	□□□
3	外国語指導講師	コナー・メリーマン	英 語	□□□	□年 □月	
4	非常勤講師	今田 英史	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
5	非常勤講師	井上 隆	数 学	□□□	□年 □月	□□□
6	非常勤講師	櫻井由美子	理 科	□□□	□年 □月	□□□
7	非常勤講師	村野 好郎	理 科	□□□	□年 □月	□□□
8	非常勤講師	藤原 尚子	音 楽	□□□	□年 □月	□□□
9	非常勤講師	大津 忍	美 術	□□□	□年 □月	□□□
10	非常勤講師	望月 貴子	美 術	□□□	□年 □月	□□□
11	非常勤講師	遠藤真由美	英 語	□□□	□年 □月	□□□
12	非常勤講師	荒井アジア	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
13	非常勤講師	田神 嘉子	家 庭	□□□	□年 □月	□□□
14	非常勤講師	山田佳奈子	情 報	□□□	□年 □月	□□□
15	非常勤講師	二宮由紀則	(商 業)	□□□	□年 □月	□□□
16	非常勤講師	竹居 寛信	通級指導	□□□	□年 □月	□□□
17	非常勤労務職員	飯田 茂美	環境整備	□□□	□年 □月	
18	非常勤労務職員	森田 美幸	用 務	□□□	□年 □月	
19	スクールカウンセラー	白鳥 志保		□□□	□年 □月	
20	スクールカウンセラー	鈴木 順一		□□□	□年 □月	
21	校 医	岡田 典之	内 科	□□□	□年 □月	
22	校 医	大川 哲弥	内 科	□□□	□年 □月	
23	校 医	松尾 博道	耳鼻科	□□□	□年 □月	
24	校 医	長谷川英稔	眼 科	□□□	□年 □月	
25	校 医	山田 一郎	歯 科	□□□	□年 □月	
26	校 医	塩崎 洋堂	歯 科	□□□	□年 □月	
27	校 医	難波 祐一	歯 科	□□□	□年 □月	
28	校 医	百瀬 哲也	歯 科	□□□	□年 □月	
29	薬剤師	鈴木 雄大		□□□	□年 □月	
30	健康管理医	高野 俊史	内 科	□□□	□年 □月	

職 員 調

定時制

(令和7年7月31日現在)

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	教頭	大野 浩史	総括補佐	□□□	□年 □月	□□□
2	教諭	西島 辰也	国語	□□□	□年 □月	□□□
3	教諭	野島 孝良	英語	□□□	□年 □月	□□□
4	教諭	村杉 陽一	(商業)	□□□	□年 □月	□□□
5	教諭	渡井 将希	理科	□□□	□年 □月	□□□
6	教諭	青木 佑馬	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
7	教諭	井村 圭希	数学	□□□	□年 □月	□□□
8	教諭	原 裕太	国語	□□□	□年 □月	□□□
9	教諭	中村 圭佑	地歴公民	□□□	□年 □月	□□□
10	主事	青木 南夏	給与	□□□	□年 □月	□□□
平均年数					□年 □月	

整理番号	職名	氏名	事務分担	住所	勤務年数	摘要
1	養護教諭(臨)	岡村 智佳	養護	□□□	□年 □月	□□□
2	非常勤講師	藤原 尚子	音楽	□□□	□年 □月	□□□
3	非常勤講師	望月 貴子	美術	□□□	□年 □月	□□□
4	非常勤講師	田神 嘉子	家庭	□□□	□年 □月	□□□
5	非常勤講師	荒井アジア	保健体育	□□□	□年 □月	□□□
6	校医	岡田 典之	内科	□□□	□年 □月	
7	校医	大川 哲弥	内科	□□□	□年 □月	
8	校医	松尾 博道	耳鼻科	□□□	□年 □月	
9	校医	長谷川英稔	眼科	□□□	□年 □月	
10	校医	山田 一郎	歯科	□□□	□年 □月	
11	校医	塩崎 洋堂	歯科	□□□	□年 □月	
12	校医	難波 祐一	歯科	□□□	□年 □月	
13	校医	百瀬 哲也	歯科	□□□	□年 □月	
14	薬剤師	鈴木 雄大		□□□	□年 □月	
15	健康管理医	高野 俊史	内科	□□□	□年 □月	

職 員 の 年 齢 調

全日制

(令和7年7月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	11	
30歳以上40歳未満	26	
40歳以上50歳未満	8	
50歳以上56歳未満	6	
56歳以上61歳未満	4	
61歳以上	2	再任用
計	57	平均年齢 38.8歳

定時制

(令和7年7月31日現在)

年 齢	人 員	摘 要
20歳未満	0 人	
20歳以上30歳未満	6	
30歳以上40歳未満	0	
40歳以上50歳未満	1	
50歳以上56歳未満	1	
56歳以上61歳未満	0	
61歳以上	2	再任用
計	10	平均年齢 38.6歳

健 康 管 理

1 令和6年度受診状況

区 分	内 容
受 診 状 況	受診者数 64 人 職員数 68 人
受 診 率	100 %
県平均受診率	100 %

(1) 未受診の理由

1人
 2人
 1人

2 令和7年度在籍者の健康管理区分結果

健 康 管 理 区 分			人 数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		0人
B 1	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要 治 療	0人
B 2		要経過観察	0人
C 1	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要 治 療	0人
C 2		要経過観察	0人
D 1	平常の勤務でよい。	要 治 療	11人 (11人)
D 2		要経過観察	28人 (28人)
D 3		医 療 不 要	23人 (23人)
区 分 者 計			62人 (62人)
未区分者数			5人
合 計			67人 (67人)

(1) 管理区分A～C 2 該当者に対する措置状況

(2) 未区分の理由

ア 1人
 イ 2人
 ウ 0人
 エ
 () 1人
 () 1人